



明治大学博物館

年報

2021年度



明治大学博物館

明治大学博物館

年 報

2021年度



明治大学博物館

目次

I 展示活動	5
1. 特別展	
2. その他の展覧会／コラム展	
II 教育普及活動	9
1. 講座	
2. 博物館実習	
3. 在学生対象事業	
4. アウトリーチ活動	
5. 社会連携・大学間連携	
6. 博物館ボランティア活動	
7. 明治大学博物館友の会	
III 広報活動と情報発信	16
1. オンライン発信	
2. 印刷物	
3. 報道機関等による取材	
4. ミュージアムショップ	
IV 研究活動	17
1. 調査・研究活動	
2. 研究業績	
3. 刊行物	
4. 大久保忠和考古学振興基金	
V 収蔵資料	25
1. 資料収集	
2. 資料整理	
3. 資料記録	
4. 資料利用	
5. 図書	
VI 統計・一覧・資料	25
1. 入館データ	
2. 組織・構成	
3. 予算・決算	
4. 施設概要・見取り図	
5. 規程	
6. 2021年度博物館長期・中期計画	
7. 2021年度単年度計画重点項目	
8. 明治大学博物館のあゆみ	
VII 刑事部門2021年度購入・寄贈資料について	44
VIII 埼玉県北東部の旧家伝来漆器資料	47

表紙写真：「新収蔵・収蔵資料展2020・2021」 出展資料より

本書の編集にはMicrosoft Word及びAffinity Publisher ver. 1.10.6を使用した。

I 展示活動

1 特別展

(1) 明治大学創立140周年記念事業「校友山脈－明治大学の教育と人材－」

① 実施形態

主催 明治大学

企画 明治大学史資料センター 明治大学博物館

後援 明治大学校友会

会期 7月31日（土）～11月3日（水・祝）69日間（日曜・祝日、夏季休業期間は閉室）
※新型コロナウイルス（COVID-19）対策として、開室時間を土曜10:30～12:30に変更
※祝日臨時開室：9月20日、23日（休日授業実施日）11月1日、3日（140周年イベント等）

会場 アカデミーコモンB1博物館特別展示室 入場無料

入場者数 2,822名（同期間常設展2,528名）

担当者 村松玄太（博物館事務室大学史担当）

② 概要

大学は、幅広い教養と専門的な学問を教授し、人材の育成を図ることをその社会使命としている。これまで大学は、時代ごとの社会構造の変化に対応し、未来を切り拓く多様な人材育成に取り組み、数多くの有為な人材を輩出してきた。明治大学が1881年の創立以来、送り出した卒業生は50数万人にも及ぶ。卒業生たちは明治大学での学びを糧に全世界で活躍し、人類社会の基盤構築に寄与し続けている。その傍ら卒業生たちは、母校を助け、後進に手を差し伸べる役割をも担ってきた。明治大学は、社会の多様な場で貢献を果たしながら母校への支援を惜しまない卒業生や関係者たちを、日本ではじめて「校友」と敬称し、校友とともに「同心協力」して大学の持続的発展に努めてきた。

140周年を迎える本年、明治大学博物館と明治大学校友会に関する資料と知見とを蓄積する明治大学史資料センターとの共同企画により、数多の校友の中から、〈顕著な業績を残した人物群像〉と、校友たちを育んだ〈明治大学の教育〉を主題とした展示を開催し、明治大学が輩出した「校友山脈」の広がり、内外の幅広い世代に周知するとともに、明治大学の教育が人材育成の側面から近代社会の発展に果たした役割を改めて検証する機会とすることを目的とした。

当初の計画では明治大学中央図書館ギャラリー、岸本辰雄ホールを含めた3会場で実施する計画であったが、準備段階で新型コロナウイルス感染症の拡大のため緊急事態宣言の発令が見込まれたため、同会場での開催は見送り、明治大学博物館会場へ展示内容を統合することとなった。

また、同じ理由により、7月28日に予定していた開幕式典は中止した。代替として同日に学内関係者向けの内覧会を行い、29日・30日には学外の関係者・展示協力者向けの内覧会を実施した。

11月1日は祝日であったが、同日に開催された明治大学創立140周年式典に合わせて臨時開室し、多くの式典出席者が観覧した。

③ 展示構成

A 校友山脈－明治大学に学んだ人びと

古今東西の校友群像の一端を①法曹、②政財界、③文化芸術、④スポーツの分野から100名を選び、パネルで紹介した。生年順に配置し、明治大学の総合大学化と連動して、輩出人材が各分野に広がっていくことを示した。

I 明治大学の人材教育

有為な人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする明治大学10学部の歩み

と教育、卒業生の進路を紹介した。1881年の明治法律学校に始まる、明治大学各学部の設立と教育方針等をパネルで示した。

ウ ご存じ！明大時代小説家の系譜—子母澤寛・佐々木味津三・富田常雄・五味康祐……

明治大学は、時代小説・歴史小説作家を数多く生み出した。その代表的な作家である子母澤寛・佐々木味津三・富田常雄・五味康祐などの人物と作品を紹介した。さらに、時代小説家の作品を原作とした映画・テレビなどの「メディアミックス」作品も取り上げ、現在まで残る時代小説家の作品の影響力の大きさを示した。

当初は中央図書館ギャラリーで展示予定であったが、博物館特別展示室の展示に組み入れた。

④ 展示資料の概要

出展総数：歴史時代小説等合計60点。人物解説パネル112枚、主要解説パネル27枚。

⑤ 関連イベント

ア オンライン講演会「校友山脈 その140年と現在」

明治大学が輩出した代表的な人材を紹介し、明治大学の建学精神との関わりを考える講演と、インタビュー映像「校友山脈 明治大学140→150周年 150人の卒業生たち」への出演・制作に関わった各界の第一線で活躍する4氏が現在と各氏の「原点」としての学生時代について語る座談会の2部構成とした。第24回明治大学ホームカミングデー（オンライン開催）の一環として実施し、オンデマンド配信した。

日 時：10月17日（日）13:00～14:30

13：00～13：30 セッション1 明治大学校友山脈の系譜（講演）

講 師：村上一博（明治大学史資料センター所長 明治大学法学部長）

13：30～14：30 セッション2 学生時代の経験と現在（座談会）

登壇者：北野 大（明治大学校友会会長）、野村達矢（株式会社ヒップランドミュージックコーポレーション代表取締役社長）、守屋健太郎（映画監督）、高橋知典（弁護士）

参加（視聴）者：600名

⑥ 頒布物

ア 展示解説パンフレット

編 著：明治大学史資料センター

タイトル：明治大学創立140周年記念事業2021年度明治大学博物館特別展図録「校友山脈—明治大学の教育と人材—」

発行：2021年7月31日 ページ数：16ページ 部数：2,000部 頒価：¥100

⑦ インタビュー映像「校友山脈 明治大学140→150周年 150人の卒業生たち」の制作

各界の第一線で活躍する校友10名へのインタビュー映像を 明治大学公式YouTubeチャンネルで公開。

出演者（全て校友）

北野 大（1965年工学部卒 明治大学校友会会長 秋草学園短期大学長）

池端 俊策（1970年政治経済学部卒 脚本家）

立川 志の輔（1976年経営学部卒 落語家）→公式サイト

三田 紀房（1981年政治経済学部卒 漫画家）→公式サイト

野村 達矢（1986年商学部卒 ヒップランドミュージックコーポレーション社長・日本音楽制作者連盟理事長）

片倉 正美（1991年経営学部卒 EY新日本有限責任監査法人理事長）

加藤 正俊（1992年政治経済学部卒 テレビドラマプロデューサー）

高橋 知典（2011年法学部卒 弁護士）

三澤 世奈（2012年商学部卒 江戸切子職人）→公式サイト

児玉 雨子（2016年文学部卒・2018年大学院文学研究科修了 作詞家）

監督 守屋健太郎（1992年法学部卒）

(2) 明治大学創立140周年記念事業「校友山脈—明治大学の教育と人材—」

① 実施形態

主 催 明治大学史資料センター 明治大学博物館

会 期 2022年2月3日（木）～4月10日（日）54日間（日曜・祝日、夏季休業期間は閉室）

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策として開室時間を平日：10:30～16:30、土曜10:30～12:30に変更

※臨時開室：4月10日（日）

会 場 アカデミーコモンB1博物館特別展示室 入場無料

入場者数 844名（同期間常設展734名、2/28現在）

担 当 者 村松玄太（博物館事務室大学史担当）

② 概要

日本最古・最大の学生街である神田は、今をさかのぼること140年前に、江戸時代武家町であった神田西端（現在の千代田区神田神保町及び神田駿河台、神田錦町、西神田界限）に教育機関が次々と設置されたことに始まる。1886（明治19）年に駿河台に校舎を構えた明治大学もその一つであり、同地区周辺には下宿屋、書店、料理店など学生たちの大きな生活圏が形成されていき、今なお学生を育む街として変化と成長を続けている。

本展示はSDGs 17の目標のうち、「4 質の高い教育をみんなに」、「11 住み続けられるまちづくりを」にリンクしている。展示室とオンライン空間とを組み合わせ、学生街の今／昔を紹介し、学生街と大学のさらなる魅力の発見を目的とした。

③ 展示構成

ア 神田学生街の〈場〉。今⇄昔

神田学生街の変遷や新旧さまざまなランドマークを、大学所蔵の古写真を活用して紹介し、時代の変化を浮き彫りにした。

イ かつての明大生がみた神田学生街

各界で活躍する明治大学校友（卒業生）が学生だった頃目にした100年以上にわたる神田学生街の風景について、校友による文章と写真を使って紹介した。

ウ 学生企画

「住み続けられるまちづくりを」などSDGsの目標に対応し、明治大学において街と協業している商学部小林尚朗ゼミ、政治経済学部大森正之ゼミ、情報コミュニケーション学部島田剛ゼミの活動を紹介。また、博物館学生広報アンバサダーによる神田学生街のスポット紹介を展示。

④ 展示資料の概要

出展総数：昭和30年代卒業生の学生服、ゼミコラボ商品等合計45点。主要解説パネル42枚。

⑤ 関連イベント

ア 座談会「神田学生街に生きる」（SNSで公開）

神田学生街と深い関わりのある校友が街と大学への思いを語る。

第I部 「神田学生街に暮らす」

出席者：鈴木宏昌（神西町会長）、大山恵子（神保町三丁目町会役員）、渡邊圭一（神田猿樂町会長）

第Ⅱ部 「神田学生街に商う」

出席者：石澤長一郎（有限会社石澤眼鏡店代表取締役社長）、瀧藤公夫（大屋書房三代目店主）、稲垣秀明（有限会社水戸興産代表取締役）、校條 真（株式会社風讃社企画編集部ディレクター）、船曳竜平（大和屋履物店五代目店主）

イ カフェパンセとのコラボレーション

アカデミーコモン1階カフェパンセにて、本展示で紹介した各ゼミに関する商品の販売企画に協力した。小林ゼミ：まちチョコ、大森ゼミ：エコハニー（はちみつ）、島田ゼミ：SDG s コーヒーなど

⑥ 頒布物

漫画研究部コラボラチョンシート・商学部小林信朗ゼミナールコラボバナナペーパー明大BINGO駿河台Ver.を制作

2. その他の展覧会／コラム展示

(1) 主催・共催展覧会

① 新収蔵・収蔵資料展2020・2021

会 期 3月23日～4月24日

入場者数 942名

主 催 明治大学博物館

2019・2020年度に博物館が新たに収集・受贈した資料ならびに関連する収蔵資料を紹介。江戸時代の幕府領や藩領における入墨刑を描いた『諸国御仕置墨鑑』（刑事部門）、山陰地方の焼き物のマーケティング研究の成果収集物である布志名焼雲善窯の抹茶碗（商品部門）、朝鮮半島製の可能性が高く、日本列島における成立過程を考える上でも注目される細形銅剣（考古部門）等と関連資料を展示した。

② 因・伯・雲のやきもの―山陰の手仕事から

会 期 4月30日～5月31日

入場者数 98名【新型コロナウイルス感染症

（COVID-19）により学内公開のみ】

主 催 明治大学博物館

2016～2018の3ヶ年度にかけて実施した山陰地方の陶業についての調査成果報告展。かつて1950年代末から60年代にかけて収集した鳥取県及び島根県出雲地方の陶器製品を再評価し、また近年人気の出てきた民藝のテーブルウェアに着目した。大名茶人松平不昧で知

られる松江藩御用の系譜を引く窯元から、民藝運動の影響によって独特の個性を確立した窯元まで。まとまった規模の産地こそ未形成ながら、実にバラエティに富んだ山陰地方の陶器製品の数々についてその動向を紹介した。なお、一般公開の休止にともない、オンラインコンテンツを制作して公開している。

③ 絵図が語る内藤藩の歴史

会 期 6月10日～7月7日

入場者数 427名【新型コロナウイルス感染症

（COVID-19）により6月21日までは学内公開のみ。以降一般公開】

主 催 明治大学博物館

江戸時代に岩城平（現・福島県いわき市）、延岡（現・宮崎県延岡市）などを領地とした7万石の譜代大名内藤家。明治大学博物館は、この内藤家が伝えた江戸時代の記録―古文書―を収蔵している。本展では、貴重な古文書の中から絵図を取り上げ、城絵図や広域の領地を描いた絵図、海岸線の絵図、領地の変更に伴って描かれた絵図、土地争いの際に描かれた絵図など、さまざまな絵図に文字記録を組み合わせ、内藤藩の歴史を描いた。

(2) 学内団体・外部団体による展覧会

① 明治大学とシェイクスピア

会 期 11月11日～12月17日

入場者数 1,608名

主 催 明治大学文学部

後 援 明治大学シェイクスピアプロジェクト

明治大学は多くの演劇人を輩出しているが、彼らの多くがシェイクスピアの上演においても優れた成果を披露している。また何より明大には今年で第18回を数えた「明治大学シェイクスピアプロジェクト」（MSP）の伝統がある。今回の企画では、明大出身の代表的演劇人による、各人各様のシェイクスピアとの格闘の諸相を紹介し、同時に、MSPの全18回の活動を振り返った。

(3) コレクション展

① 商品部門

ア 山陰の手仕事

会期 3月30日～7月28日 104日間

企画展「因・伯・雲のやきもの」との連動企画。山陰地方（鳥取県・島根県）各地に点在する工芸品を紹介した。

イ インパクト大きな工芸品

会期 7月29日～11月10日 75日間

装飾品として商店もしくは産地組合などでディスプレイとしての役割を担った非現実的な大きさの工芸品を展示。

ウ 旅のおもひで―1958-1965の郷土土産―

会期 11月11日～2022年2月28日 81日間

1950年代から60年代半ばにかけて、国内旅行の流行に伴って製造されたと考えられるお土産品を展示。各資料の情報量が乏しいため、来館者やSNS上で情報提供を呼び掛けた。

エ 立体化されたことわざ

会期 2022年3月2日～7月4日

年度内26日間

口伝ないし字句のイメージが強いことわざだが、絵画や工芸品などのモチーフとして用いられるケースも多い。ことわざが立体物として視覚的に表現された事例を紹介した。

② 刑事部門

ア 江戸の物価と世直し騒動

会期 6月28日～9月21日 85日間

村山郡山口村の寅日記という資料を元に、幕末期の物価上昇から世直し騒動を紹介した。

イ 錦絵に描かれた江戸・明治の駿河台

会期 9月24日～10月12日 15日間

江戸時代や明治時代の駿河台近辺を描いた館蔵の錦絵、切り絵図と共に紹介した。本展示はNPO法人東京中央ネット主催第14回EDO ART EXPOの関連展示として実施。

ウ 武鑑のせかい

会 期 2月5日～3月29日 52日間

当館所蔵の武鑑と内藤家文書の資料を共に展示。武鑑の概要から作成方法、種類などを紹介した。

③ 考古部門

ア 明大コレクション47：北東北の縄文遺跡群―亀ヶ岡遺跡と大湯環状列石

会期 6月8日～年9月20日 86日間

世界遺産に登録された遺跡のうち、購入資料の亀ヶ岡遺跡出土土器と後藤守一氏調査時に出土した大湯環状列石の資料を展示した。

イ 明大コレクション48：佐賀県桜馬場遺跡の甕棺：

会期 9月29日～12月7日 59日間

弥生時代中・後期の甕棺墓群である桜馬場遺跡の甕棺の中から、杉原荘介氏調査時に出土した第2号甕棺と副葬品であるガラス製管玉に加え、関連する有鈎銅釧（レプリカ）を展示した。

ウ 明大コレクション49：古代ギリシアと南イタリアの陶器

会期 12月13日～2022年3月14日91日間

購入資料である紀元前8世紀～前4世紀に栄えた古代ギリシア文明の陶器と同時期の古代南イタリア陶器を取り上げ、当時の土器について紹介した。

(4) 図書館ギャラリー展示

①中央図書館ギャラリー

本年度は実施せず。

②生田図書館ギャラリーZERO

本年度は実施せず。

③和泉図書館ギャラリー

「絶滅した化石人類と動物たちー明治大学博

物館考古部門コレクションよりー」

【新型コロナ感染症（COVID-19）拡大のため延期】

II 教育普及活動

1. 講座

(1) リバティアカデミー博物館入門講座

本年度は実施せず。

(2) リバティアカデミー博物館公開講座

① 明治大学博物館考古学ゼミナール

ア 第66回 先史・古代の海洋民を考える

(Zoomによるオンライン開催)

【企画】 忽那敬三・島田和高

日 時	6月4, 11, 18, 25日 金曜日 18:00~20:00 (全4回)		
定 員	定員100名		
講 師	①池谷信之 (明治大学黒耀石研究センター)、②杉山浩平 (東京大学)、③西川修一 (神奈川県立旭高等学校)、④富加見泰彦 (岡山理科大学・大阪経済大学非常勤講師)		
受講料	¥5,500	受講登録者数	39名
《趣旨》	最新研究によって明らかになってきた旧石器時代から古墳時代までの日本列島における海洋民の実像について紹介する。		
	①旧石器・縄文時代の人と海 (池谷) ②弥生時代の海人集団とは (杉山) ③海浜型墳墓と首長を支えた集団 (西川) ④紀伊の海人集団と古代豪族・紀氏 (富加見)		

イ 第67回 茨城県虎塚古墳石室公開40周年記念 壁画古墳の世界

(Zoomによるオンライン開催)

【企画】 忽那敬三・島田和高

日 時	11月12, 19, 26, 12月3日 金曜日 15:00~16:30 (全4回)		
定 員	定員100名		
講 師	①稲田健一 (公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課)、②木崎康弘 (八洲開発株式会社取締役)、③建石 徹 (国立文化財機構東京文化財研究所保存科学研究センター長)、④高木恭二 (宇土市民会館長)		
受講料	¥5,500	受講登録者数	71名

《趣旨》	壁画古墳の源流と考えられる九州の様相、画題から読み解く古墳時代人の世界観、修復を経てよみがえる高松塚古墳を取り上げ、さまざまな角度から壁画古墳の実像に迫った。
①未盗掘壁画古墳の発見・虎塚古墳 (稲田)	
②九州の装飾古墳ー「肥後」域の装飾古墳を中心としてー (木崎)	
③よみがえる高松塚古墳 (建石)	
④装飾古墳に描かれた世界 (高木)	

(3) 商学研究科と共催の公開特別講義

新型コロナ感染症（COVID-19）拡大にともない大学が定める活動制限指s針により、開催の前提となる調査活動が実現せず、招聘講師の交渉もできなかったため中止とした。

2. 博物館実習

(1) 館務実習

① 商品部門

参加者数 明治大学16名

《実習内容》館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理 (台帳カード作成、保存容器組立と資料収納)、資料原簿のデジタル化

② 刑事部門

参加者数 明治大学12名

《実習内容》館内施設・設備見学、高札法量測定、古文書整理、マイクロフィルム整理、展示調査・解説発表

③ 考古部門

参加者数 明治大学22名

《実習内容》収蔵資料整理、保存処理、保存資材制作、坂本万七写真研究所コレクション整理、特別展パネル制作

(2) 見学実習受入れ

南山大学人文学部黒沢浩教授「博物館実習2・3」(補講)として、明治大学博物館・南山大学人類学博物館オンライン交換展示についてリモート講義を実施。

10月13日 (水) 受講者数18名

講師 日比佳代子 (刑事部門学芸員)・

秦優莉香 (南山大学人類学博物館 学芸担当)

3. 在学生対象事業

(1) 「大学博物館の現場を実見する」全学共通総合講座 (秋学期開講月曜2限)

《授業の概要・到達目標》

本学の博物館は90年以上の歴史を持つ。収蔵資料の充実や利用者サービスで大学博物館トップクラスの評価を得ており、その存在が明治大学の教育・研究活動を特色付けている。この授業では、学術資源の豊富な収蔵を特徴とする大学博物館を事例として、資料収集の経緯と手順、学術資源として幅広く研究に活用されるための手当て、さらに研究成果を社会に還元する装置としての展覧会開催に言及し、大学及び大学博物館と一般市民による生涯学習活動との関わりなど、収集・研究・教育という博物館活

回	テーマ	担当者
1	イントロダクション／博物館の役割と機能	駒見和夫*
2	我が国における大学博物館の現状と明治大学博物館の歴史	外山 徹
3	博物館資料の形成1 (旧石器～縄文)	島田和高
4	博物館資料の形成2 (弥生～古墳)	忽那敬三
5	博物館資料の形成3 (刑事関係文献・歴史資料)	日比佳代子
6	博物館資料の形成4 (商品関係資料)	外山 徹
7	博物館資料の整理と保存1 (考古資料)	忽那敬三
8	博物館の施設・設備	外山 徹
9	展覧会の開催まで (2020年度特別展)	島田和高
10	博物館資料の整理と保存2 (古文書資料)	日比佳代子

11	考古資料の発掘と調査・研究	島田和高
12	古文書資料の調査・研究と資料公開	日比佳代子
13	生涯学習と友の会活動	忽那敬三
14	総括 ふりかえりと意見交換	駒見和夫

*文学部教授 (学芸員養成課程)・博物館運営委員・本講座コーディネーター

動の一連の流れを理解する。

受講登録者数47名

※オンライン会議システムを使用したりリモート講義を実施した

(2) 「文化資料学」(国際日本学部 春学期開講金曜3限)

「日本文化」とは何かを問うために、日本の歴史や過去の生活文化に対する理解は欠かせません。幸いにして、私たちは学校教科書をはじめとする書籍や映像メディアを通してそれらを学ぶことができます。しかし、そこで示されている事柄は、一体、どのようなプロセスを経て明らかにされてきたのでしょうか？ それらは様々な文化資料 (文化財) に対する調査・研究の地道な積み重ねから導き出されているのです。この授業では、文化資料として地域の中に普遍的に残存しており、地域博物館の収蔵体系

回	テーマ	担当者
1	イントロダクションー歴史の復元と資料	外山
2	考古遺物と文化1 (旧石器・縄文時代)	島田
3	考古遺物と文化2 (弥生・古墳時代)	忽那
4	遺跡の保存と活用1 (旧石器・縄文時代)	島田
5	遺跡の保存と活用2 (弥生・古墳時代)	忽那
6	考古資料の展示と保管	島田
7	発掘された遺物の洗浄と接合ー考古遺物の整理方法	忽那
8	古文書とは何か？ー江戸時代の社会と文書	日比
9	民俗資料とは何か？ー庶民生活史を知る学問の成立	外山
10	古文書の保存と活用	日比
11	有形民俗資料 (民具) に見る生活文化	外山

12	古文書の整理	日比
13	地域に遺された歴史の痕跡をたどる	外山
14	授業で得られた知見の共有／授業内小テスト	忽那

の中心をなしている考古学・歴史学・民俗学に関わる資料について取り上げます。

受講登録者数9名

※大学の活動制限指針の変動にともない、対面とオンライン会議システムを使用したりリモート講義を併用した。

(3) 学生広報アンバサダー

学生同士が交流を深め、充実した学生生活を送れるよう支援するプログラムとして、今年度から学生広報アンバサダーを募集、活動を支援した。

① 春学期活動 5月10日～7月31日

21名が4チームを編成して活動。

ア 特別展「校友山脈」の広報

和泉キャンパスにおけるチラシ配布 6/30、7/2、7/7
学生向けポータルサイト（Oh-o!Meiji）による宣伝文の送信 9/27～10/26 各3回
「特別展「校友山脈」開催中」（見どころ紹介）「ご存じですか？社会で活躍する先輩方のこと」

イ SNS広報

博物館の見所や駿河台キャンパス周辺のスポットを大学マスコット「めいじろう」が案内するSNSによる情報発信「めいじろうとおさんぽ」7/1～31 15回
(Facebook、Twitter、Instagram)

ウ 館長・副館長をまじえた意見交換会

7/31開催

② 秋学期活動 11月3日～

春学期参加者から5名が継続して活動。

ア 特別展「神田学生街」と連動した情報発信

駿河台界隈の町を紹介する記事をメディアプラットフォームのnoteで発信「のんびり」神田学生街 2022.1/19～3/14 25回。

日本最古の学生街である神田学生街。明治大学をはじめ、数多くの学校が立ち並び、

そしてその周りでは学生たちのための街が形成されました。現在も、有名な古書店街のほかに、喫茶店、料理屋、文具屋などなど、ここには書ききれないほど様々な種類の店が軒を連ねています。昔から変わらない部分を残しながら、学生の在り方の変化とともに街は絶えず変わっているのです。本企画はそんな神田学生街を再発見し、現役学生とのつながりを深めていこうというものになります！

※2022年2月から3名が参加し、最終的に8名が活動。

(4) 1・2年生向けバックヤードツアー

第1回 11月27日(土) 10:30-12:00

担当：外山 参加者 15名

第2回 12月11日(土) 10:30-12:00

担当：外山 参加者 14名

学生向けポータルサイトOh-o!Meijiへの告知により、各回定員15名を募集した。博物館教室での解説(30分)の後、3班に分かれて収蔵室・作業室等の見学(各班20分)、常設展及び「明治大学とシェイクスピア」展を自由見学。

4. アウトリーチ活動

(1) 福井県父母会オンライン講演会

福井県父母会より依頼のあった博物館ガイダンスを中心としたオンライン講演会を校友連携事務室の協力を得て以下の通り実施した。講演では、明治大学博物 Online Museum コンテンツのほか、各部門学芸員による動画解説を用いた。

日 程：2021年9月18日（オンライン会議）

演 題：「明治大学博物館のコレクションと展示－その個性と魅力－」

講師：島田和高

(2) 下原・富士見町遺跡出土品の出張展示

調布キャンパスの明治高等学校・中学校校舎建設にともなう2004～2007年度の明治大学校地内遺跡調査団による埋蔵文化財発掘調査で発見された下原・富士見町遺跡からは、後期旧石器時代を中

心に、縄文時代、近世～近・現代の遺構と遺物が出土した。明高中と出土品を保管する博物館は、在校生の歴史・地理への興味を喚起し理解を深める目的で、校舎1階のホワイエに設置した展示ケースに下原・富士見町遺跡出土遺物の展示を制作し11月26日から公開した。遺跡から出土した約3万～2万年前の後期旧石器時代の石器や復元された縄文土器、打製石斧を展示。社会科授業などを通して教材として活用される予定。

5. 社会連携・大学間連携

(1) 地域連携

① 宮崎県延岡市

延岡市内藤記念館のリニューアルに伴い、新施設の展示用複製品・グラフィック・映像として内藤家文書33点の利用を許諾した。

② 大英博物館所蔵ウィリアム・ガウランド写真資料（寄託資料）関連資料の活用事業

寄託資料の出版利用1件について許諾した。また、大英博物館よりガウランド資料と思われる来歴不明資料の照会があり、過去の当館の調査に基づいて来歴と本来の収蔵箱を調べ、教示した。

(2) 大学間連携：南山大学人類学博物館との交流事業

① オンライン交換展示の実施

通常は資料の交換展示を行っているが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により両館とも展示室の公開を中止していたため、オンライン展示に変更した。

ア 明治大学博物館制作「錦絵に描かれた捕者道具」

会 期：9月30日～11月8日

南山大学人類学博物館ホームページ上で公開

イ 南山大学人類学博物館制作「民族誌資料に見るタカラガイの利用のかたち－南山大学人類学博物館の資料から－」

会 期：9月30日～11月8日

明治大学博物館ホームページ上で公開

② 社会人向けギャラリートーク

従来のギャラリートークの開催に代えて、両館と共に展示解説動画を制作・公開。

③ 在学生向け特別講義

ア 南山大 5月21日 5限

テーマ 大学博物館の使命と機能

講 師 外山徹（商品部門学芸員）

受講生 95名

※黒沢浩教授「博物館概論」としてオンライン会議システムによるリモート講義を実施した

イ 明治大 11月26日 3・4限

テーマ 南山大学人類学博物館の試み

博物館資料を資源化する

講 師 黒沢浩（南山大学人文学部教授）

受講生 23名

※学芸員養成課程「博物館実習」として実施

④ 学術シンポジウム成果報告集の刊行

A4判 本文38ページ 1000部

2022年3月31日刊行

《目次》

第I部 モノと人を結ぶ－展示資料とのコミュニケーション－

市橋芳則（北名古屋市歴史民俗資料館 昭和日常博物館館長）「昭和日常博物館の試み－モノに対峙すると人と時と地域が結ばれる。」／高橋修（東京女子大学現代教養学部教授）「モノとしての古文書の活用－シンポジウム以後の知見を踏まえて－」／駒見和夫（明治大学文学部教授）「土器と人を結ぶ知覚アプローチの可能性」／外山徹（明治大学博物館学芸員）「コメント」

第II部 今、博物館は何をするべきか－コロナ以後の持続可能性を考える－

井上由佳（明治大学文学部准教授）「博物館が人と社会と向き合うために：英国の状況と日本の人材育成」／緒方泉（九州産業大学地域共創学部教授）「超高齢化社会に向けた博物館浴研究の現状と今後の展開」／広瀬浩二郎（国立民族学博物館学術資源研究開発センター准教授）「近代を問う直す“触”の大博覧会」／黒沢浩（南山大学人文学部教授）「コメント」／合同シン

6. 博物館ボランティア活動

(1) 常設展解説ボランティア

① 参加者

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため2021年度は実施せず。

② 研修日程及び内容

ア 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため2021年度展示解説員研修は実施せず。

イ 一般会員を含む研修講習会（リモート開催）

日程	研修種別	研修内容
4月13日	考古部門2	新収蔵資料展2021考古部門 日中韓の青銅製武器について
5月25日	商品部門	工芸デザインの革新：平成編－「伝統」の再構成
6月22日	刑事部門1	絵図が語る内藤藩の歴史
7月20日	考古部門1	XRF、ときどき3D－最近の巣ごもり研究から－

催)

日程	研修種別	研修内容
11月25日	考古部門2	質問回答
12月23日	商品部門	質問回答
1月27日	刑事部門	質問回答
2月24日	考古部門1	【延期】

ウ フォローアップ研修（リモート開催）

(2) 図書室ボランティア

① 友の会会員

- ・受付、入退出対応 一名
- ・書架整理 一名

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため2021年度は実施せず。

7. 明治大学博物館友の会

(1) 概要

① 会員数

532名 ※2022年2月28日現在

② 総会

5月29日

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため書面による総会とした。

5月25日（書面報告期日）

2020年度事業報告／2020年度会計監査報告／2021年度事業計画／2021年度予算案

(2) 活動記録

① 講演会

ア 総会特別講演会「古墳文化の中央と周縁－交通の変化と地域社会－」 5月29日 茨城大学人文社会科学部教授 田中裕氏（リモート開催）

イ 第4回特別講演会「日本の武術・武道が大事にしてきたもの」 6月19日 明治大学博物館副館長・明治大学国際日本学部教授 長尾進氏（リモート開催）

ウ 講演会「日本考古学2021」 9月18日「飛鳥地域における王陵の地域史研究～檜隈安古岡上陵と八角墳～」明日香村教育委員会文化財課調整員・関西大学非常勤講師 西光慎治氏、「はじめて土器を手にした人たち－狩猟採集民はなぜ土器を生み出したか－」明治大学文学部教授 藤山龍造氏（リモート開催）

エ 第18回古代史講演会「土偶の根本的性質とその展開過程」 10月23日 公益財団法人滋賀県文化財保護協会総務課企画室長 瀬口真司氏（リモート開催）

オ 第19回古代史講演会「聖徳太子とその時代」 11月20日 明治大学名誉教授 吉村武彦氏（リモート開催）

カ 近代史講演会「廃仏毀釈とは何だったのか－明治維新の「黒歴史」を追って－」 12月4日 作家・ジャーナリスト・京都浄土宗正覺寺住職・一般社団法人良いお寺研究会代表理事 鶴飼秀徳氏（リモート開催）

キ 第20回古代史講演会「縄文早期の居家以人骨と岩陰遺跡」 2022年1月29日 國學院大学文学部教授 谷口康浩氏（リモート開催）

ク 中世史講演会「中世の「水海」「内海」とその認識変容」 2022年3月19日 明治大学文学部教授 高橋一樹氏（リモート開催）

催)

② 見学会

ア 会員企画による地元見学会「文の京を歩く」 11月【中止】

③ 広報活動

ア 会報発行：年4回（春・夏・秋・冬）

イ 行事案内：友の会ホームページでの情報提供

ウ 友の会掲示板の活用と行事チラシの作成

④ 博物館への協力

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止に

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	0名
博物館図書室書架整理	月1～2日	0名
展示解説	火・木・金	0名

より活動を休止した。

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	20名	外山学芸員 森朋久氏※1
平成内藤家文書研究会	12名	伊能秀明氏※2
工芸の会	11名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	25名	島田学芸員
弥生文化研究会	23名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	27名	日比学芸員
東アジアの中の古代日本研究会	27名	
前方後円墳研究会	27名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	28名	
古代東北アジアと日本研究会	20名	
飛鳥・奈良の会	27名	

⑤ 学習サークル（活動原則として月1回）

Ⅲ 広報活動と情報発信

※1 明治大学農学部兼任講師
※2 元明治大学刑事博物館学芸員

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行以前と比較して大幅に来館者数が落ち込む中、オンラインによる情報提供に注力することとした。また、そもそも来館層が生涯学習世代の高齢者に偏る傾向がある一方、在学生の利用が少ない状態が課題となっていた。博物館学生広報アンバサダーの導入を皮切りに、SNSや学内ポータルサイトを活用した情報発信を強化することにした。その体制として、6月に部門横断型の広報チームを新たに立ち上げ、情報発信をおこなった。

1. オンライン発信

(1) ホームページの公開

- ・ごあいさつ
 - ＞ごあいさつ
 - ＞理念・目標
- ・常設展示
 - ＞大学史展示室
 - ＞商品部門
 - ＞刑事部門
 - ＞考古部門
- ・企画展・特別展

＞2022年展覧会案内

＞2021年展覧会案内

＞過去の展覧会（2004年～2014年）

＞過去の展覧会（2015年～）

- ・開館時間・休館日・アクセス等
- ・団体見学について
- ・図書・古文書の利用
 - ＞博物館図書室
 - ＞古文書閲覧のご案内
- ・ミュージアムショップM2
 - ＞特別展図録
 - ＞刊行物
 - ＞郵送販売のご案内
- ・教育プログラム
- ・博物館の重点事業(特定課題の取り組み)
- ・学芸スタッフ紹介
- ・明治大学博物館友の会
 - ＞入会のご案内
 - ＞行事予定
 - ＞展示解説ボランティアについて
 - ＞図書室受付ボランティアの募集について
 - ＞分科会のご案内
- ・リンク
- ・広報誌「ミュージアム・アイズ」
- ・博物館年報
- ・明治大学博物館アーカイブ
- ・ニュース一覧・イベント一覧

- ・このような方はこちら
 - ＞明治大学博物館の団体見学をご希望の方
 - ＞明治大学博物館所蔵資料を出版・放送等に利用される方
 - ＞明治大学博物館へ取材を希望される方
 - ＞明治大学博物館へ寄附をお考えの方
- ・明治大学博物館 公式Facebook
- ・明治大学博物館 公式Twitter
- ・明治大学博物館 公式Instagram
- ・明治大学博物館 公式note
- ・明治大学博物館ONLINEミュージアム
- ・Mm×おうちミュージアム

(2) 明治大学博物館ONLINE ミュージアム

<http://ict-museum-meiji.tokyo/index.html>

常設展、特別展、企画展ならびに商品・刑事・考古部門の多彩な収蔵資料を多角的な視点から情報発信する目的で、ウェブサイト「明治大学Onlineミュージアム」を制作し、2020年7月14日より公開中。

【主要コンテンツ】

- ① 「展示室をあるく」
展示室の天球画像とスチル画像を組み合わせた自由探索型のバーチャル展示室
- ② 「詳しく知る」
収蔵資料データベース、準備中
- ③ 「じっくり見る」
360°画像や高精細画像を用いた資料観察用のインタラクティブコンテンツ
- ④ 展示会アーカイブ
特別展・企画展ほかの動画コンテンツを配信

(3) Mm×おうちミュージアム

<https://www.meiji.ac.jp/museum/6t5h7p000034migl.html>

北海道博物館が呼びかけている「おうちミュージアム」の取り組みに参画した。賛同する全国の200館を超える博物館・美術館が「おうちミュージアム」という共通の冠名称を共有して、コロナ禍による臨時休館措置の代替事業として、あるいは自宅学習を余儀なくされている児童・生徒向けのサービスとして、館内の情報を発信、また自宅

で学べるコンテンツなどを紹介した。

【コンテンツ一覧】

- ① 収蔵資料紹介
 - ア 商品：小学5～6年生向け 伝統工芸をまなぶ (PDF) / 漆器①②③ (動画)
 - イ 刑事：武家諸法度 (PDF) / 生類憐みの令 (PDF) / 公事方御定書 (PDF) / 江戸の物価と世直し一揆 (PDF) / 図解五拾五ヶ條 (動画) / 捕者道具他 (動画) / 印章の話 (動画) / 高札①② (動画)
 - ウ 考古：亀ヶ岡遺跡出土 遮光器土偶 (動画) / 舟塚古墳出土馬形埴輪 (動画) / 茂呂遺跡出土ナイフ形石器 (動画)
- ② 企画展記録映像
因・伯・雲のやきもの—山陰の手仕事から
- ③ 展示解説シート
北東北の縄文遺跡群 (PDF)
- ④ アクティビティ
土器をくっつけて復元してみよう (神奈川県二ツ池遺跡出土：壺形土器・パズル) / 武道修行鍛錬競ぬりえ / めいじろうぬりえ / 「やよいどきをぬってみよう！」 / 「アマビエめいじろうをぬってみよう！」

(4) 博物館利用案内動画

サイネージ掲示や各種のガイダンス用に3～4分程度の動画を作成した。

- ① 博物館総合案内
博物館の成り立ちや展示室の概要を紹介。2021年度は明治高等学校・中学校ガイダンスで配信したほかアカデミーコモン1階のサイネージで常時掲示している。
- ② 博物館総合案内 (英語版)
①の英語版。アカデミーコモンのサイネージやホームページで公開を予定。
- ③ 博物館の代表的資料紹介動画
各部門3件ずつの代表的資料を解説。

(5) オンラインによる広報活動

- ① SNSによる情報発信
 - ア 特別展に係わる広報
特別展「校友山脈」：校友紹介7月9日～10月27日(19回)、大学史さんぽ7月28日～11

月/2日 (15回)、見所紹介7月26日～10月25日 (8回)

「神田学生街—140年の今⇄昔」：神田学生街今昔1月24日～4月4日 (11回)、見どころ紹介1月28日～4月8日 (11回)

イ 展覧会に係わる広報：「絵図が語る内藤藩の歴史」6月1日～7月7日 (24回)、「明治大学とシェイクスピア」11月16日～12月13日 (9回)

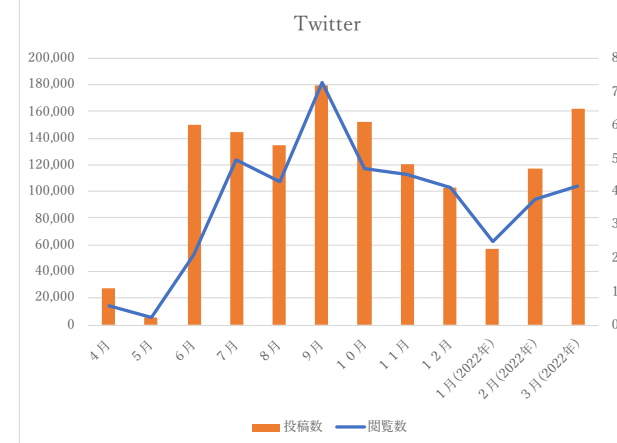
ウ 定期コンテンツ：「常設展もすごい」8月19日～12月24日 (37回)、「オンラインもすごい」1月18日～3月30日 (19回)、「Facebook版学芸研究室から」8月26日～3月25日 (13回)

エ その他：(ア)～(ウ)の定期的なコンテンツのほかにも、お知らせ、イベント情報(コラム展、江戸アートエキスポ、他)やオンラインコンテンツ(広島大学総合博物館のヒログととのコラボレーションによる館の相互紹介他)、ミュージアムグッズの新規開発、日常風景(ある日の明博)などの情報発信を適宜行なった。

② 発信数・閲覧数の推移

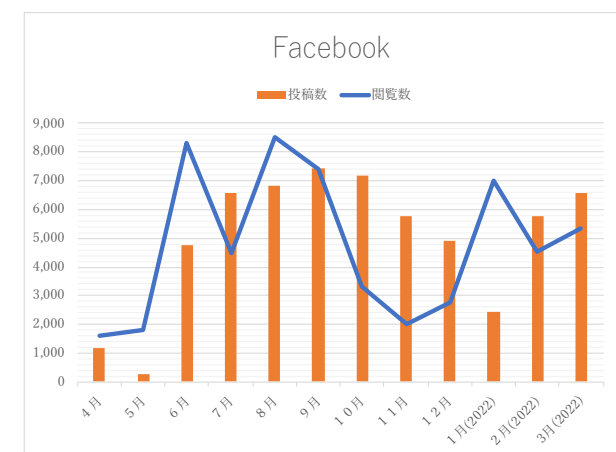
ア Twitter (上段：投稿数 下段：閲覧数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
11	2	60	58	54	72
14,029	5,978	52,747	124,185	107,647	182,336
10月	11月	12月	1月	2月	3月
61	48	41	23	47	65
117,083	112,322	103,306	62,618	94,108	103,812



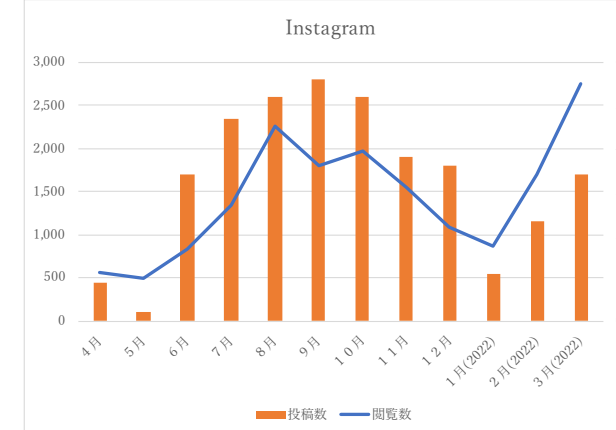
イ Facebook (上段：投稿数 下段：閲覧数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
9	2	37	51	53	58
1,601	1,801	8,312	4,478	8,515	7,429
10月	11月	12月	1月	2月	3月
56	45	38	19	45	51
3,309	2,025	2,749	6,999	4,514	5,353



ウ Instagram (上段：投稿数 下段：閲覧数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
9	2	34	47	52	56
557	491	831	1,349	2,255	1,796
10月	11月	12月	1月	2月	3月
52	38	36	11	23	34
1,980	1,547	1,091	878	1,695	2,757



※閲覧数：Twitterはインプレッション(のべ閲覧数)、FacebookとInstagramはリーチ数(同一閲覧者による複数回閲覧数を除外)をそれぞれサイトが提供するデータを掲載している。

(6) オンラインイベントへの参加

① IMインターネットミュージアム「ミュージアムキャラクターアワード2021」

2010年から毎年開催されているイベントに当館「捕者めいじろう」をエントリーした。7月27日から9月9日までの45日間にわたる投票期間において、SNSによる投票よびかけの発信を強化し、そのことにより8～9月の投稿数・閲覧数が急激に上昇することになった(⑤ーイ表参照)。また、在学生・父母会・校友会にも投票の呼びかけをおこなった結果、14,049票を得て2021年のグランプリを獲得し、学内外にわたって博物館の存在を大きくアピールすることができた。10月13日に館内で表彰式がおこなわれている。

② IMインターネットミュージアム「ミュージアム干支コレクション2022」

商品部門收藏の腰高とら(三春張子 橋本高宜作 1997年収集)をエントリーした。12月14日から1月27日までの45日間にわたる投票期間に760票を得て7位となった。期間中、終始上位に位置したため、画像の露出度は高く、当館をアピールする機会となった。

(7) 江戸アートエキスポへの参画

NPO法人東京中央ネットが立ち上げたEDO ART EXPO実行委員会が主催する、東京都中央区、千代田区、港区、墨田区の商業施設、企業、ホテル、神社仏閣や文化・観光施設などの既存の施設をパビリオンに見立てて江戸から続く伝統や文化・芸術を紹介する仮想博覧会イベントに「関連展示会場」として参画した。

会 期：9月24日～10月12日 19日間

※当館は日曜休館のため16日間

会期中の常設展入場者667名

会期に合わせて刑事部門のコラム展「錦絵に描かれた江戸・明治の駿河台」を開催、特別展「校友山脈」における子母澤寛をはじめとする本学出身の時代小説家を紹介する展示をアピールした。

2. 印刷物

(1) 広報誌『ミュージアム・アイズ』

① 77号

特集 校友山脈—明治大学の教育と人材—
A4判 12頁、5,000部、9月28日発行

② 78号

特集 新たな広報活動
A4判 12頁、5,000部、2022年3月26日発行

(2) 『明治大学博物館年報2020年度』

A4判 68ページ
本文モノクロ、4C
7月20日発行 印刷部数200部
ウェブ公開のため配布は学内関係者のみ

(3) その他

展覧会案内2021年(A4判三ツ折) 20,000部

3. 報道機関等による取材

(1) 新聞掲載

本年度は該当なし。

(2) テレビ放映

①探検!博物館ワンダーランド(再放送・再々放送) NHK-B s プレミアム

②記念館前出土遺物紹介 「瀧川鯉斗の古今東京ぶらり噺」 BS朝日

③明治大学博物館 常設展示室紹介 「ガリレオX」#263 BSフジ

(3) 雑誌掲載

本年度は該当なし。

(4) 官公庁刊行物掲載

本年度は該当なし。

4. ミュージアムショップ

(1) グッズ販売

見本を展示、受付窓口で刊行物等有償頒布
《2021年度新規開発商品》
Tシャツ(めいじろう) S,M,L,XL,XXL 計 200 枚
Tシャツ(土偶) S,M,L,XL,XXL 計 200 枚

キーホルダー(山形土偶) 300 個

キーホルダー(考古) 200 個

キーホルダー(商品) 200 個

掲示

(4) 友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

(5) 博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

IV 研究活動

1. 調査・研究活動

(1) 商品部門

① オンラインインタビュー調査

以前に調査をおこなった工芸作家・商社に対し、近年の状況、コロナ禍の経営への影響、オンラインを活用した営業・販売活動についてヒアリングをおこなった。

・備前焼 7月1日 作家 澁田寿昭氏

・有田焼 7月29日 (有)金照堂(卸売商)代表取締役 金子真爾氏

・瀬戸赤津焼 8月30日 喜多窯霞仙 加藤裕重氏

《参加者》(各回とも)

菊池一夫(運営委員)、高橋昭夫(研究調査員)、上原義子(同)、外山徹(学芸員)

② 伝統的工芸品のマーケティング研究(信楽焼)ア 滋賀県信楽焼調査(3月24日～25日)

統計・文献調査(滋賀県庁統計資料室、滋賀県立図書館、甲賀市立信楽図書館)

勅旨地区メーカー等視察

滋賀県『工業統計調査結果報告書』及び旧信楽町統計書から企業数・生産額等の推移にかかわるデータを取得し、情報誌等から商品開発の動向や無形文化財指定の経緯等について知見を得た。また、県立陶芸の森陶芸館にて「JAPAN STYLE」展を見学した。

調査員：外山徹

※新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大にともなう大学が定める活動制限指針により、現地調査は規模を縮小して実施した。

③ 創業者出身地自治体の伝統的工芸品調査(越前漆器)

※新型コロナウイルス(COVID-19)拡大にともなう大学が定める活動制限指針により現地調査の実施を休止中。

(2) 刑事部門

① 科研費若手研究(B) 26770230「転封大名の新領における「藩」構築過程の研究」(研究期間：2014～2021年度、研究代表者：日比佳代子 博物館事務室)

本課題は、館蔵の内藤家文書を素材として、江戸時代の大名の転封(幕命による大所領移動)に注目し、転封大名が領地・領民と一体性を有した「藩」を短期間で構築してゆく過程を明らかにするものである。

2021年度は、内藤藩の藩政組織を分析する上で基礎資料となる「御役人前録」(内藤家文書2-11-192)を翻刻、解題を付し、資料集「内藤家文書 御役人前録」として出版

(3) 考古部門

① 科研費基盤研究(B) 19H01345「最終氷期における中部高地の景観変遷と黒曜石資源開発をめぐる人間—環境相互作用」(研究期間

：2019～2022年度、研究代表者：島田和高 博物館事務室)

2019年度に実施した長野県矢出川湿原から得られた複数のボーリングコアの年代測定の結果、いずれも完新世以降の年代に属していたことから、2020年度には矢出川湿原以外の候補地を選定し、中部高地における更新世堆積物の花粉分析を目的とした補足ボーリング調査を計画した。しかしながら、COVID-19の感染拡大により計画を実施できず、当該計画と経費は2021年度に繰越した。

本課題では、長野県中部高地黒曜石原産地の標高1000～2000m付近における最終氷期の古環境と人類遺跡の黒曜石利用の復元をとおして先史時代の黒曜石資源開発の諸相を究明することを目的としている。2020～2021年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大状況により研究計画の一部を2022年度まで繰り越している。今年度は古環境調査として長野県入笠山大阿原湿原で機械ボーリング調査を行う予定であったが、2022年度に繰り越した。10月に同湿原でボーリング地点選定のためのパイロットボーリングを行い、湿原断面の基盤地形の復元まで計画を進めた。先史黒曜石利用の調査については、携帯型蛍光X線分析装置（p-XRF）による原産地分析システムの稼働を開始し、7月～9月にかけて霧ヶ峰周辺の諏訪市所在旧石器時代石器群を対象とした化学分析および原産地判別を行ない、成果を公開した。

② 伝玉里舟塚古墳資料報告書作成作業

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大に伴い不定期に学生の入構自粛措置が取られたため、今年度は作業を休止した。

③ 三昧塚古墳武具整理作業

武具類の保存修復作業を茨城県の予算により奈良県の元興寺文化財研究所で実施中。2021年度終了予定。現地で保存修復協議に参加（6月16日、10月26日、3月3日：忽那）。

(4) 博物館等機関へ出張調査

尖石縄文考古館（資料調査、6月18日：島田）／諏訪市博物館（資料調査、6月17日、7月6～9日、8月2～6日、9月28～10月2日：島田）／明治

大学黒曜石研究センター（機材調査、10月30日：島田）／多気石器遺跡群調査委員会（佐賀県多気市）（遺跡視察、委員会出席、2022年2月9～10日：島田）（オンライン会議に変更）／茂原市立郷土資料館（資料調査、6月26日：忽那）／江戸東京博物館（展示視察、7月3日：忽那）／神奈川県相模原市個人宅（個人コレクション調査、10月21日：忽那）／茨城県立歴史館ほか（貸出資料展示状況・関連展示視察、12月2日：忽那）／茨城県大洗町（シンポジウム茨城県の古墳コメント、12月10日：忽那）／群馬県高崎市観音塚資料館ほか（貸出資料展示状況視察、関連展示視察、遺跡視察、12月2日：忽那）／奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（展示視察、3月2日：忽那）

2. 研究業績

(1) 論文・著書

島田和高・隅田祥光2022「携帯型蛍光X線分析装置Bruker Tracer 5iを用いた黒曜石原産地分析法の構築」『資源環境と人類』12, pp.37-49.

島田和高2022「中部高地黒曜石原産地および周辺地域における後期旧石器時代石器群のp-XRFを用いた原産地分析—雪不知遺跡,茶白山遺跡,八島遺跡—」『資源環境と人類』12. pp.121-131.

外山 徹2021「精陶社関係資料について」『明治大学博物館年報2020年度』pp.58-67

※資料紹介

外山 徹2022『武州高尾山信仰の地域的展開』, 岩田書院 242頁 ※単著

外山 徹2022「コメント モノと人を結ぶ—展示資料とのコミュニケーション—」『明治大学博物館+南山大学人類学博物館合同シンポジウム報告書2019-2020』pp.17-20

忽那敬三 2021「常陸における後期の埴輪」『古代文化』73(2), pp.100-105

(2) 学会等発表

島田和高 「携帯型蛍光X線分析装置 p-XRF を用いた黒曜石原産地出土石器の成分分析—検

線法による原産地推定の実践と課題—」『黒曜石研究の新動向—原産地推定法をめぐって—』10-11 「資源環境と人類2021 シンポジウム・信州黒曜石フォーラム第4回例会（オンライン会議） 2021年11月28日 口頭 島田和高「入笠山大阿原湿原の調査概要とp-XRF黒曜石原産地分析の現状」明治大学黒曜石研究センター研究集会（オンライン会議） 2022年3月5日 紙上

(3) 講演等

島田和高 『明治大学リバティアカデミー 明治大学140周年記念講座 明治の伝統を考古学の未来に活かす①』「黒曜石が明らかにする人類史」（オンライン開催） 2021年10月9日、講師

(4) 受賞等

忽那敬三 令和3年度ひたちなか市功労表彰（史跡保存対策委員会委員） 2022年2月20日

3. 刊行物

(1) 「内藤家文書 御役人前録」の刊行

内藤家文書の研究活用を目的として、同藩を理解する上で基本となる資料を翻刻し資料集として刊行した。収録した「御役人前録」は、藩初から幕末までの内藤藩の上級役職を書き上げ、その就任者を記している。同藩の上級役職が網羅的に収録されており、藩政組織を知る上で基礎的なものである。

著者：日比佳代子、2021年3月31日刊行 A5判 印刷部数1,000部

4. 大久保忠和考古学振興基金

(1) 基金終了予定日の変更

当初、5月下旬の理事会承認をもって規程廃止及び基金の終了を予定していたが、学部長会・理事会に規程廃止案を付議するにあたり、財務課より基金残金の処理を2021年度末に他の基金関係と一括して実施するため、規程廃止を2022年3月31日とするよう要望があったため規程廃止時期について2022年3月31日として2021年5月19日の学部長会、同5月25日の常勤理事会、同26日の理事会に付議し、了承された。基金は2022年3月31日で終了とし、報告書を刊行（オンライン公開、一部オンデマンド印刷）する。

V 収蔵資料

1. 資料収集

(1) 資料数（部門別）

	刑事	考古	商品	合計	
受入	購入	2	1	0	3
	受贈	0	7	14	21
合計	2	8	14	24	
前年度総数	215,211	218,649	5,133	438,993	
今年度総数	215,213	218,657	5,147	439,017	
時田昌瑞ことわざコレクション				1,450	
前場幸治瓦コレクション				10,725	
総合計				451,192	

※実測図・書籍・写真は含めない

【参考】年度別収蔵数（部門別）

	刑事		考古		商品	
	購入	受贈	購入	受贈	購入	受贈
2016	14	0	2	0	6	84
2017	1	4	1	0	23	20
2018	4	124※1	1	0	7	84
2019	11	0	1	0	24	1
2020	8	8	1	7	1	109

※1：ほかに未整理文書8箱分あり

(2) 購入資料一覧

種別・分類	資料名
絵画資料	日本東西道中画
古文書 古典籍 古地図等	御取手縄仕様書
考古遺物	三味塚古墳 金銅馬形飾付透彫冠復元品
商品資料	なし

(3) 受贈資料

部門	資料名
刑事	なし
商品	蒸籠（安政3年・1856） 溜塗菓子椀（嘉永5年・1852）（2点） 緑金黒漆塗蓋付椀（3点） 手あぶり火鉢 内朱外黒蓋付椀（3点） 蒔絵暁烏帆柱文蓋付椀（3点） 根来塗重箱
考古	ベトナム採集瓦（コーロア城・土雙廟）7点

(4) 寄託資料

- 『**刑罪大秘録**』他3点
受託期間2017年4月1日～2022年3月31日
※5年ごとに更新
- 故里見庫男氏所蔵文書（3373点）**
福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体「いわき地域史学会」及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた史料群。
受託期間2019年4月1日～2022月3月31日
※3年ごとに更新
- 大英博物館所蔵ガウランド写真資料複写（458点）**
受託期間2021年4月1日～2024年3月31日
※3年ごとに更新
- 茨城県三味塚古墳出土青・短甲・小札**
受託期間2020年4月1日～2023年3月31日
※3年ごとに更新

(5) 資料修復

- 考古部門**
ア 埼玉県原谷古墳群出土 大刀1点

(6) 教材製作

2020年度は該当なし。

2. 資料整理

(1) 商品部門

- 収蔵資料所在調査・再配架（陶磁器）**
- 受贈資料の整理（台帳カード作成及び梱包、収蔵室への配架作業） 保存容器を作製し陶磁器関係資料を収納した**
- 架蔵態勢の整備（再梱包、収納箱ラベルの更新等）**
- 収蔵資料データベースの校訂作業**
- 資料原簿のデジタル化**

(2) 刑事部門

- 文学部日本史専攻教員・院生と共同での古文書調査**
- 高札の整理（法量測定、アーカイバル容器作成、収納）**
- 古文書の酸性封筒から中性紙封筒への交換、古文書資料の史料目録との照合による欠本確認**
- マイクロフィルム等2次資料整理**
- マイクロフィルム調湿剤・ガス吸着材入れ替え**

(3) 考古部門

- 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備**
- 収蔵資料の所在確認**
- 矢島恭介資料の整理（点数・内容確認）**
- 藪塚遺跡、休場遺跡、上土棚遺跡、下原・富士見町出土黒曜石製石器の原産地分析**

3. 資料記録

(1) 撮影

- 刑事部門**
ア 内藤家江戸上屋敷絵図（内藤家文書・政道氏寄贈6-3-1-1）
イ 海上の図（内藤家文書・増補追加（5）-88）
ウ 延岡宝財嶋玉町之図（内藤家文書・年報16内122）
エ 筑後筑前豊後豊前四ヶ国之図（2016年度新収資料）
オ 肥後日向両国之図（2016年度新収資料）
カ 日本東西道中画（2021年度新収資料）

(2) デジタル化

- 商品部門**
ア 学内共通フォーマットによるデータベース構築に向けた既存の収蔵資料写真データの整理
イ 旧精陶社関係陶磁資料（近代鍋島焼、12代柿右衛門作品、二代宮川香山作品等25点）
- 刑事部門**
ア 内藤家江戸上屋敷絵図（内藤家文書・政

- 道氏寄贈6-3-1-1）
イ 海上の図（内藤家文書・増補追加（5）-88）
ウ 延岡宝財嶋玉町之図（内藤家文書・年報16内122）
エ 筑後筑前豊後豊前四ヶ国之図（2016年度新収資料）
オ 肥後日向両国之図（2016年度新収資料）
カ 日本東西道中画（2021年度新収資料）
- 考古部門**
ア 旧石器～縄文時代遺跡発掘記録類のデジタルデータ化（大判資料の業務委託）、および3Dスキャナによる石器遺物の三次元計測を実施（重点項目：「考古遺物の多視点のアーカイブ」事業）
イ 坂本万七写真フィルム：法隆寺関係（劣化が激しいもの）30点
ウ 坂本万七写真フィルム：シアトルアジア美術館所蔵武人埴輪7点

4. 資料利用

(1) 資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	その他	合計
一次資料出品数	—	512点	—	8	520点
レプリカ等出品数	—	4点	—	—	4点
撮影		520点	—	—	133点
掲載等	171点	288点	1点	—	460点
合計	84件 515点	87件 875点	1件 1点	1件 8点	

《参考》年度別資料利用数推移

	出展数 (レプリカ内数)	撮影	掲載
2016	733 (28)	797	547
2017	655 (6)	654	467
2018	748 (6)	1,254	1,279
2019	689 (2)	763	296
2020	790 (77)	133	527
2021	524 (4)	415	460

(2) 収蔵資料閲覧

調査閲覧	刑事部門		考古部門
	古文書	マイクロ	
	909点	239リール	
人数	55名		18件

《参考》年度別資料閲覧数推移

	刑事			考古 件数
	古文書(点)	マイクロ (本)	人数	
2016	1,644	308	131	46
2017	1,106	596	105	45
2018	2,131	137	103	27
2019	1,782	118	123	33
2020	68	20	7	29

(3) 貸出先・展覧会・出展資料一覧

① 刑事部門

本年度は該当なし。

② 考古部門

ア 国立歴史民俗博物館

国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室（先史・古代）（大テーマⅠ「最終氷期に生きた人々」・大テーマⅡ「多様な縄文列島」・大テーマⅢ「水 稲耕作のはじまり」において展示）

貸出期間：2021年4月1日～2022年3月31日
長野県矢出川第1遺跡出土石器他
計28点

イ 岩手県立博物館

岩手県立博物館常設展示

貸出期間：2021年4月1日～2022年3月31日
岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点

ウ 市立市川考古博物館

市立市川考古博物館 常設展示

貸出期間：2021年4月1日～2022年3月31日
佐賀県多久三年山遺跡出土尖頭器他
計80点

エ 港区郷土歴史館

港区立郷土歴史館 常設展示

貸出期間：2021年4月1日～2022年3月31日
東京都芝公園出土須和田式壺形土器他
計109点

オ 千葉県教育振興財団

令和3年度出土遺物公開事業「らくがく縄文

館」

会期：①市立市川考古博物館 2021年7月24日～9月12日、②八千代市郷土博物館 2021年10月16日～12月5日、③袖ヶ浦市郷土博物館 2022年1月15日～2月27日
千葉県姥山貝塚出土加曾利B2式深鉢他
計3点

カ 岩宿博物館

岩宿博物館第74回企画展「岩宿時代のくらしを調べる」

会期：2021年7月1日～10月8日
埼玉県砂川遺跡出土石器（接合資料2構成石器）他 計47点

キ 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室

展示期間：2021年7月2日～2021年10月8日
群馬県岩宿遺跡出土ナイフ形石器 他 計39点

ク 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「石器文化の地域性」のコーナーに展示）

貸出期間：2021年7月1日～2021年6月30日
群馬県武井遺跡出土石器他 計330点

ケ 高崎市教育委員会

令和3年度高崎市観音塚考古資料館第33回企画展「群馬の中期古墳とその時代」
会期：2021年10月2日～12月5日
群馬県中原古墳（沢野村72号墳）出土横刳板鋌留短甲他 計7点

コ 十日町市博物館

新館オープン1周年記念・秋季特別展「岡本太郎が見て、撮った縄文」
会期：2021年9月6日～12月3日
秋田県大湯遺跡出土片口土器他 計5点

サ 東京都江戸東京博物館

令和3年度特別展「縄文2021―東京に生きた縄文人―」
会期：2021年10月9日～12月5日
神奈川県夏島貝塚出土骨角器他 計4点

シ 茨城県立歴史館

令和3年度企画展3 「ふえいす―掘り出された顔かたち―」
会期：2021年9月18日～11月23日
栃木県出流原遺跡出土顔面付土器他 計2点

ス 古代オリエント博物館

フランスレ・レスピューグ出土ヴィーナス（レプリカ）他 計2点

セ 岩宿博物館

第75回企画展「相澤忠洋と岩宿時代研究」
会期：2021年10月9日～11月28日
群馬県藪塚遺跡出土石器他 計17点

ソ 板橋区立郷土資料館

企画展「再発見！いたばしの遺跡―いたばしの弥生時代・古墳時代―」
会期：2021年10月9日～12月19日
東京都前野町遺跡出土土器他 計8点

タ 茨城県立歴史館

令和4年度企画展1「ビフォー・アフター三昧塚」
会期：2022年4月29日(金・祝)～2022年6月19日(日)
茨城県行方市勅使塚古墳出土重圈文鏡他
計4点

(4) その他の資料利用

① 刑事部門

ア 明治大学文学部教授 落合弘樹

授業での使用 図解五拾五ヶ條

(5) 資料掲載利用一覧

① 刑事部門

今川仮名目録 第29条 「NHK高校講座 日本史 第16回 『下剋上の社会と戦国大名』」（再放送） NHK

鑑札 株仲間札 「NHK高校講座 日本史 第23回 『幕藩体制の動揺と政治改革』」（再放送） NHK

地方測量之図 「NHK高校講座 日本史 第25回 『新しい学問の形成と化政文化』」（再放送） NHK

出羽国村山郡観音寺村（岡田家）文書 渡辺尚志『近世の村と百姓』 勉誠社

内藤家文書 3-23-11日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷付絵図 延岡城の現在の状況と有馬時代の状況を比較するCGを延岡市公式ホームページや市民フォーラム等で利用、「城山公園城跡景観等有識者会議」からの提言書に添付する資料として利用（各報道機関に配布、延岡市ホームページに掲載）、延岡城の石垣マップを作成し

見学用パンフレットとして配布、ホームページ掲載、延岡城内に設置予定の石垣説明板に利用

『**徳川幕府刑事図譜 賭博の図**』 高等学校用検定教科書『精選日本史探究』 実教出版
『徳川幕府刑事図譜』 切腹の図 「春風亭昇太のこだわり歴史嘸」再放送 BS11

『**徳川幕府刑事図譜 御様の図**』 『週刊日本刀』第104号 デアゴステイーニ・ジャパン
邪蘇宗門御改帳 延宝五年 『2022共通テスト直前対策問題集 日本史B』 河合出版

下野国安蘇郡閑馬村絵図 「2022 共通テスト過去問題集 日本史B」 書店販売問題集 駿台文庫

『**徳川幕府刑事図譜**』 不義の娘親に引き渡されたる図 「浮世絵ミステリー 歌麿・国芳 ヒットの謎～江戸メディアの闘い～」 NHKワールドプレミアム

下野国安蘇郡閑馬村絵図 2021年度 2学期テキスト「共通テスト日本史」 代々木ゼミナール

下野国安蘇郡閑馬村絵図 『大学入学共通テストへの道 日本史』第2版 山川出版社

『**徳川幕府刑事図譜 斬罪仕置の図他**』 「にっぽん！歴史鑑定」#61 『高橋お伝は毒婦だったのか？』（再放送） スカパー！

邪蘇宗門御改帳 延宝五年 中山口村 『社会の自主学习 歴史2・3』（紙媒体・PDF版） 新学社

内藤家文書 増補5-12 五十三次ねむりの合の手 他 神崎直美『幕末大名夫人の知的好奇心―日向国 延岡藩 内藤充真院―』（岩田書院ホームページにてPDF公開）

内藤家文書 2-6-57-41 朱印状控 陸奥国磐前郡小名浜村浄光院宛 小野一雄・佐藤孝徳『小名浜浄光院誌』 浄光院

高札 太政官札 キリシタン禁制（慶応4年） 2021年度後期（高3・高卒生対象）『日本史写真資料集』 河合塾

鑑札 株仲間札 「英雄たちの選択 先見の明か山師か 田沼意次の真実」（本放送・再放送・配信） NHK BSプレミアム BS4K

内藤家文書 3-23-11-35-7 延岡城石垣修補設計図 令和3年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）全国生徒研究発表大会でのポスターセッション、スライド発表にて使用

出羽国村山郡観音寺村絵図 渡辺尚志『近世の村と百姓』 勉誠出版

時世のぼり風他 「2022 パックV 日本史B」

学校販売教材 駿台文庫

武家諸法度 『必殺シリーズDVDコレクション』第37号 デアゴスティーニ・ジャパン

図解五拾五ヶ條 2022年度用高等学校用検定教科書『詳述歴史総合』（紙媒体およびデジタル教科書） 実教出版

内藤家文書 3-23-10-34-21 陸奥国磐城領・棚倉領・相馬領絵図 企画展「いわき地方の道標」展示会図録 いわき市暮らしの伝承郷

口上之覚 生類憐み令 『必殺シリーズDVDコレクション』第39号 デアゴスティーニ・ジャパン

鑑札 株仲間札 「先人たちの底力 知恵泉」『田沼意次 逆転の発想 どうする！大借金 未来の世代にツケをのこさないために』 NHK Eテレ『**徳川幕府刑事図譜**』 **捕縛の図（打込み・奇棒・鈎縄の使用法）** 「『鬼平犯科帳DVDコレクション』第6号 デアゴスティーニ・ジャパン

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 唐門復元工事記念パネル展示 小石川後楽園

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 「THE JUDICIAL SYSTEM AND COURTS IN JAPAN」（裁判所ホームページにて動画配信） 最高裁判所

今川仮名目録 豊明市歴史民俗資料室展示資料として画像使用

今川仮名目録 『歴史人』2021年12月号 ABCアーク

内藤家文書 1-7 万覚帳 他 「日記史料有感地震データベース」 東京大学地震火山史料連携研究機構

薩州屋敷焼撃之図（慶応3年新徴組） 「偉人・素顔の履歴書」#10西郷隆盛（本放送・再放送・配信・番組販売・番組DVD化） BS11

内藤家文書 3-23-10-34-1 岩城城修復願絵図他 『磐城平城文献等調査報告書』 いわき市

長宗我部氏掟書 『歴史道別冊SPECIAL』「戦国最強家臣団の真実」（紙媒体・電子書籍） 朝日新聞出版

下野国安蘇郡閑馬村絵図 「短期攻略 大学入学共通テスト 日本史B」書店販売教材 駿台文庫

地方測量之図 『社会4年デイリーサピックス440-08』 日本入試センター

鑑札 株仲間札 『香川県版 社会科歴史ノート上巻 改訂版』 新学社

出羽国置賜郡上・下伊佐沢村文書21-書冊・横帳-O-5 下長井之内伊佐沢村宗門御改帳 他 『長井市史』（平成版）通史第2巻 近世編 長井市

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 日本庭園学会公開オンラインセミナー「庭と園に学ぶ～日本庭園・学のこれまでとこれから」

鑑札 株仲間札 『江戸時代大百科』（紙版・電子書籍版） ポプラ社

内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-5 延岡城下家中屋敷割図 『延岡城内遺跡VII（延岡城西ノ丸跡）発掘調査報告書』

口上之覚 生類憐み令 貝原伴寛「生類憐みの令：徳川綱吉期日本における動物・道徳・政治」（『パルルマン：政治史評論』） レンヌ大学出版会

陸奥国仙台藩（伊達氏）文書 48-書冊・横帳-214 天保十二年七月小御記録 『近世日記の世界』 ミネルヴァ書房

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 「小石川後楽園唐門復元記録映像」 東京都東部公園緑地事務所

水戸藩小石川御屋敷御庭之図 『湖国と文化』179号 びわ湖芸術文化財団

深川亮蔵書翰他 佐賀城本丸クラシックス2『江藤新平関係書翰』 佐賀県立佐賀城本丸歴史館

内藤家文書 1-2-7-602 老中奉書（延岡より鮎献上） 内藤政樹宛西尾隠岐守忠尚他 内藤記念館新施設内にて使用

高札 太政官札 キリシタン禁制（慶応4年） 2022年度（高3・高卒生対象）『日本史写真資料集』Part2 河合塾

今川仮名目録 4月号増刊 別冊『歴史人』ABCアーク

内藤家文書 1-29-140 風聞書 乾坤他 大賀郁夫「幕末期薩摩藩をめぐる諸藩の探索活動一文久二～三年、薩英戦争前後を中心に―」（『宮崎公立大学人文学部紀要』第29巻第1号） 宮崎公立大学

地方測量之図他 NHKデジタル教材「NHK for school」

公事方御定書他 「NHK高校講座 日本史」第22回『幕政改革』 第23回『幕藩体制の危機』 教育機関へ教育・学習コンテンツとして提供

② 考古部門

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶他 『2022共通テスト総合問題集 日本史B』 河合出版

埼玉県原谷古墳群調査風景写真 忽那敬三「学芸員のページ」『明治大学博物館友の会会報 第68号』 明治大学博物館友の会

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 『2021年度

最新入試過去問徹底解説 下巻/10月号/長崎』 ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021-2022年度 メインレッスン社会（デジタル教材）/8月号/中1共通』 ベネッセコーポレーション
千葉県江原台遺跡出土山形土偶 『社会の新研究』（紙版、デジタル版） 株式会社新学社

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『2021年度 能開 講習会テキスト1年』 好学出版

茨城県法堂遺跡製塩遺構他 「東村山市公式動画 チャンネル・東村山ふるさと歴史館常設展示動画」 東村山ふるさと歴史館

神奈川県ニッ池遺跡出土壺形土器 『8月ゼミ 小6社会』塾用プリント 株式会社ティエラコム

北海道白滝服部台遺跡出土細石刃 『日本史探究』（高等学校用検定教科書） 実教出版

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度 中二5教科要点まとめ事典/月号/共通タイプ/なし』ベネッセコーポレーション

福岡県板付遺跡出土壺形土器 『2021年度 中二5教科あやふや解消事典/月号なし/共通タイプ/なし』 ベネッセコーポレーション

埼玉県砂川遺跡出土石器（接合資料2構成石器） 他岩宿博物館第74回企画展展示解説『岩宿時代のくらしを調べる』 岩宿博物館

群馬県中原古墳（沢野村72号墳）出土横矧板 鉞留短甲他 令和3年度高崎市観音塚考古資料館第33回企画展「群馬の中期古墳とその時代」図録

ガウランド撮影「大山古墳」 『倭国の古代学―「日本国」以前』 新泉社

千葉県法皇塚古墳の石室内遺物出土状況写真 『市川市史 歴史編Ⅲ まつりごとの展開―通巻3―』 市川市

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『基礎完ターゲット 社会』塾用問題集 学書

神奈川県夏島貝塚出土骨角器 令和3年度特別展「縄文2021―東京に生きた縄文人―」関連書籍および展示パネル、ポスター・チラシ等印刷物、HP掲載 東京都江戸東京博物館

秋田県大湯遺跡出土片口土器他 新館オープン1周年記念・秋季特別展図録『岡本太郎が見て、撮った縄文』 十日町市博物館

茨城県舟塚古墳出土箱形石棺他 佐々木憲一茨城県教育財団紀要『研究ノート』第18号 茨城県教育財団

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 『新版・土偶

手帖 おもしろ土偶と縄文世界遺産』 世界文化社
京都府深草遺跡出土石包丁 『2021年度 百戦錬磨』（第14回）塾用問題集 学書
栃木県出流原遺跡出土顔面付土器 小澤重雄リーフレット『ふえいすー掘り出された顔かたち―』 茨城県立歴史館

群馬県岩宿遺跡発掘風景他 『「縄文」の新常識を知れば日本の謎が解ける』 PHP研究所

岩宿遺跡A地点の発掘調査写真（1949年） 「アナザーストーリーズ 運命の分岐点」（テレビ番組） NHKBSプレミアム

フランスレ・レスピュージュ出土ヴィーナス 他 特別展『女神繚乱―時空を超えた女神たちの系譜―』展示図録・広報媒体 古代オリエント博物館

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器他 「2020年度高2プライムステージ 地理歴史『日本史B』」 河合塾

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器他 「2021年度立命館大学入試プレステージ 日本史問題（高3・高卒生対象）」 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁他 河合塾ONE日本史『基本事項解説』（映像授業） 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石器 『2021年度 考える力・プラス中学受験講座 6年生 中学入試合格テキスト/1月号/共通』 ベネッセコーポレーション

神奈川県夏島貝塚出土尖底土器 『縄文時代を深く知るための100問』 新泉社

栃木県藤岡貝塚出土深鉢形土器 『縄文時代を深く知るための100問』 新泉社

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『1・2年の入試総復習 社会』（塾用問題集） 学書

明治大学3号銅鐸 秋期企画展「大岩山銅鐸の形成―近畿式銅鐸と三遠式銅鐸の成立と終焉―」図録 野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）

群馬県岩宿遺跡出土石器（岩宿Ⅰ石器文化） TJMook『古代史の「舞台」を歩く』 宝島社

広島県帝釈峡寄倉遺跡 発掘調査風景 寄倉岩陰遺跡に設置するモニュメント、観光パンフレット、帝釈自治振興区公式ウェブサイト

製作：帝釈峡遺跡群発掘60周年記念事業準備委員会・帝釈自治振興区

群馬県藪塚遺跡出土石器他 第75回企画展「相澤忠洋と岩宿時代研究」における展示・図録掲載・動画配信サイトでの公開 岩宿博物館

群馬県岩宿遺跡出土削器 『高校合格への道 要点と対策社会』紙版およびデジタル版 教育開発出版株式会社

岩手県雨滝遺跡出土石鏃他 『2021年度3学期テキスト「共通テストファイナル（日本史）」』代々木ゼミナール

東京都前野町遺跡出土土器他 『企画展「再発見！いたばしの遺跡―いたばしの弥生時代・古墳時代―」 展示図録 板橋区立郷土資料館

群馬県岩宿遺跡出土石器（岩宿Ⅰ石器文化） 『るるぶ 地図でよくわかる都道府県大百科』JTBパブリッシング

岩手県雨滝遺跡出土石鏃 『2021年度冬期テキスト「共通テスト日本史」』 代々木ゼミナール

群馬県中原古墳（沢野村72号墳）出土横矧板鋌留短甲（正面） 他 令和3年度高崎市観音塚考古資料館第33回企画展「群馬の中期古墳とその時代」展示図録 高崎市観音塚考古資料館

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 企画展「武蔵野3万年のレシピ」における展示 公益財団法人角川文化振興財団

神奈川県月見野遺跡発掘調査風景 矢島國雄大和市月見野学習センター健康都市大学「地元探究一月見野遺跡を知る」 講演資料 やまとみらい（つきみ野学習センター指定管理者）

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 「オトナの放課後」『すきっと』vol.37 天理教道友社 群馬県岩宿遺跡出土石器〔掲載〕（岩宿博物館所蔵写真） 他 『「縄文」の新常識を知れば日本の謎が解ける』（電子書籍） PHP研究所

群馬県岩宿遺跡石出土石器 『新中学問題集 演習編 歴史1』 教育開発出版株式会社 群馬県岩櫃山遺跡出土第14例土器 「吉田類のにつぼん百低山」 日本放送協会 BSプレミアム

岩宿遺跡A地点の発掘調査写真（1949年） 「アナザーストーリーズ 運命の分岐点」（テレビ番組） NHKBSプレミアム

京都府深草遺跡出土石包丁他 『2021年度 全統共通テスト高2模試問題 地理歴史B(日本史①)』 河合塾

京都府深草遺跡出土石包丁他 模試ナビ『2021年度 全統共通テスト高2模試問題 地理歴史B(日本史①)』 河合塾

栃木県篠山貝塚縄文式深鉢形土器 『Ⅲ期ゼミテキスト&テスト 小6社会』（塾用問題集、テスト含む） 株式会社学書

群馬県岩宿遺跡出土打製石器他 『2022年度中学(中1生対象)歴史Ⅰ』 河合塾

茨城県舟塚古墳出土馬形埴輪他 小澤重雄「茨城の古墳」（大洗町シンポジウム） 発表資料

佐賀県平沢良遺跡出土石器 杉原敏之(編：佐世

保市教育委員会) 『旧石器から縄文へのかけ橋！ 福井洞窟』 雄山閣

愛知県豊橋市五貫森貝塚出土磨製石器 『さなる式 歴史Ⅰ』塾用問題集 株式会社 学書

静岡県登呂遺跡出土田下駄 「河合塾 基本解説映像日本史」 河合塾

群馬県武井遺跡出土尖頭器 『スマホで持ち運べる問題集 中学社会』電子版 株式会社学研プラス

京都府深草遺跡出土石包丁他 全統模試分析システムKei-Navi『2020年度第1回 全統記述模試問題 地理歴史・公民（日本史）』他 河合塾

群馬県武井遺跡出土尖頭器 『わけがわかる小学社会』紙・電子版 株式会社 学研プラス

千葉県江原台遺跡出土山形土偶 『2022年度入試過去問徹底解説 上巻/8月号/長崎』 ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡出土打製石器他 渡辺晃宏『日本史探求』（文科省検定高校用教科書） 東京書籍株式会社

群馬県岩宿遺跡出土打製石器他 渡辺晃宏『日本史探求』（文科省検定高校用教科書）教師用指導書 附属DVD-ROM 東京書籍株式会社

茨城県勅使塚古墳出土重圏文鏡 徳田誠志「根岸武者旧蔵の重圏文鏡について」『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究』V 國學院大學

静岡県三池平古墳石室内部 「静岡市歴史博物館基本展示 解説グラフィックパネル」 静岡市

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2022年度(高3・高卒生対象)「日本史写真資料集」Part1』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧他 『2022年度基礎シリーズ(高卒生対象)「完全習得タイム日本史」』 河合塾

岩手県雨滝遺跡出土石鏃凹形他 『2022年度基礎シリーズ(高卒生対象)「日本史B(共通テスト対応)」』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧他 『2022年度基礎シリーズ(高卒生対象)「日本史B(共通テスト対応)」』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧他 『2022年度Ⅰ期(高2生対象)「高2日本史」』 河合塾

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧他 河合塾マナビス(高校生対象)「共通テスト対策日本史B<原始・古代>習得度テスト」』 河合塾

ト辞甲骨6 『中国出土資料研究』第26号 表紙デザイン 中国出土資料学会

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧他 全統模試分析システムKei-Navi 『2021年度高2プライムステージ 地理歴史「日本史B」』他 河合塾

岩手県雨滝遺跡出土石匙他 『第1回学力テスト（日本史B）』 代々木ゼミナール

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『2022年度 考える力・プラス中学受験講座 5年生 中学入試授業テキスト8月号 共通』 ベネッセコーポレーション

神奈川県夏島貝塚貝層断面写真 『縄文海進―陸と海の変遷と人々の適応―』 富山房インターナショナル

群馬県武井遺跡出土尖頭器 『定期テスト出るナビ中学歴史 改訂版』 株式会社学研プラス

京都府深草遺跡出土石包丁 『2022年度第1回 全統記述模試問題 地理歴史・公民(日本史)』河合塾

石神井川から望む茂呂遺跡他 文化財シリーズ第100集『時代を紡ぐ』総集編 板橋区教育委員会事務局

流水文銅鐸（明大1号銅鐸）他 大学入試シリーズ『明治大学（全学部統一入試）』2023年版 世界思想社教学社

群馬県岩宿遺跡A地点の発掘調査写真（1949年） 『ここまで変わった！ 縄文・弥生の新常識（仮）』 KAWADE夢新書シリーズS436 夢の設計社

③ 時田昌瑞ことわざコレクション

教育いろはかるた（明治期） 『総合百科事典ポプラディア 第三版』（書籍版・ネット版）ポプラ社

5. 図書

(1) 蔵書数

(2) 購入・寄贈数

① 図書受入数

図書	全所蔵冊数	（冊）	129,618
	和	（冊）	97,469
	洋	（冊）	1,250
	製本雑誌	（冊）	30,899
雑誌	全所蔵冊数	（タイトル）	3,032
	和	（タイトル）	2,979
	洋	（タイトル）	53

② 雑誌継続タイトル数

※2015年度統計より図書館蔵書システムからの出力による数値を使用。

総受入冊数		（冊）	1,700	
図書受入冊数 ※製本雑誌を含む	購入	和	（冊）	89
		洋	（冊）	0
	寄贈	和	（冊）	1,607
		洋	（冊）	4

総受入種類数		（タイトル）	333
雑誌受入種数	和	（タイトル）	332
	洋	（タイトル）	1

VI 統計・一覧・資料

1. 入館データ

(1) 入館状況

① 開館日数・時間

ア 休館日

- ・8月10日～16日（夏季休暇）
- ・12月26日～1月7日（冬期休暇）

イ 開館時間 月曜～金曜：10:00～17:00、土曜：10:00～12:30

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	25	23	26	25	16	23	26	25	22	19	22	26	278

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展	1,058	175	388	736	435	829	1,180	1,227	1,169	696	786	1,674	10,360
特別展	699	94	238	204	586	714	1,241	1,202	672	0	844	1,644	8,138
図書室	172	324	433	310	122	279	359	346	349	140	91	144	3,069
教室等利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	105	136	73	146	220	830	1,004	676	516	3,462	21,567

エ 月別入館・利用者数

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2004～2021
常設展示室	43,331	63,036	64,379	65,118	2,553	10,360	748,597
特別展示室	23,409	29,145	18,649	41,855	1,052	8,138	326,430
図書室	5,316	4,851	5,730	5,057	1,183	3,069	86,462
教室等利用	3,426	3,160	3,780	3,084	0	0	30,935
計	75,482	100,192	92,538	115,114	3,707	21,567	1,192,424

《参考》年度別入館・利用者数

名称	期間	開館日数	入館者数
校友山脈—明治大学の教育と人材—	7月31日～11月3日	69日間	2,822名
校友山脈第Ⅱ部 神田学生街 140年の今⇄昔	2月3日～4月10日	54日間	844名

名称	期間	開館日数	入館者数
新収蔵・収蔵資料展2020—2021	3月23日～4月24日	29日間	942名
因・伯・雲のやきもの—山陰の手仕事から	4月30日～5月31日	24日間	98名
絵図が語る内藤藩の歴史	6月10日～7月7日	24日間	427名
明治大学とシェイクスピア	11月11日～12月17日	32日間	1,608名

② 特別展入館者数

③ 主催・共催展・その他の展覧会入館者数

(2) 団体見学

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	2	0	0	0	0	0	2	2	2	1	0	3	12
人数	39	0	0	0	0	0	35	36	43	79	0	60	292

① 月別集計一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ア 学校団体

イ 一般団体

② 団体一覧

明治大学政治経済学部石川ゼミ／治大学法学部村上ゼミ／杉並区立高南中学校 1学年／Kg高等学校
 稲田堤キャンパス／錦城学園高校 3年生／新宿区立西早稲田中学校／江東区立深川第五中学校／学
 校法人盈進学園 東野高等学校／福岡県立小倉南高等学校

(3) 視察・研修受入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
人数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

① 受入団体数・参加人数

② 団体名一覧

本年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため該当なし。

(4) 図書閲覧サービス

① 図書開室時間

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため、開室日・時間を変更。

月～金曜日10：00～13：00／13：30～16：30、土曜日10:00～12:30（休日授業実施日以外の祝日は閉室）

② 閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生・大学院生	142	304	404	260	80	204	261	266	264	104	47	71	2,407
明大教職員	8	7	5	6	1	3	7	7	9	7	7	17	84
友の会	6	1	1	—	—	—	2	1	4	—	—	—	15
リパティ 7カデミー会員	—	—	—	—	1	—	2	—	—	—	—	—	3
聴講生	—	—	—	—	—	1	—	2	3	1	—	—	7
校友	—	—	—	—	1	1	—	1	2	3	6	4	18
他大学学生	—	—	4	21	15	45	54	34	48	8	6	12	247

一般	5	1	7	11	8	8	17	20	6	9	11	22	125
明大その他	11	11	12	12	16	17	16	15	13	8	14	18	163
合計	172	324	433	310	122	279	359	346	349	140	91	144	3069
開室日数	25	23	26	27	16	23	26	23	22	19	22	26	278
1日平均(人)	6.9	14.1	16.7	11.5	7.6	12.1	13.8	15.0	15.9	7.4	4.1	5.5	11.0

※学内構成員（学部生・大学院生・明大教職員・明大その他）以外の利用を4月1日から再開（4月26日～6月20日は緊急事態宣言に伴う本学の活動制限指針引き上げのため中止）

2. 組織・構成

(1) 博物館構成員

① 館長・副館長

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

役職	氏名	所属	専門
館長	千葉修身	商学部教授	会計学
副館長	長尾進	国際日本学部教授	身体教育学

② 専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会連携部長	川口誠人		
博物館事務長	市川園子		
庶務担当	武井大貴 ※		
学芸員	外山徹	商品部門	博物館学／地域文化論
学芸員	島田和高	考古部門	考古学
学芸員	日比佳代子	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那敬三	考古部門	考古学

※：大学史資料センターと兼務

③ 非常勤職員

	氏名	担当
短期嘱託職員	織田潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	久保田惟子	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	林田真由子	商品部門担当
短期嘱託職員	勝見知世	刑事部門担当
短期嘱託職員	川嶋陶子	考古部門担当
短期嘱託職員	遠藤瞳子	
短期嘱託職員	杉本茉織	アーカイブ、広報担当

(2) 博物館運営委員会

① 運営委員会

任期：2021年4月1日～2023年3月31日

委員長	千葉修身	館長／商学部教授
副委員長	長尾進	副館長／国際日本学部教授

	小林史明	法学部専任講師
	菊池一夫	商学部教授
	山内健治	政治経済学部教授
	落合弘樹	文学部教授
	駒見和夫	文学部教授
	野尻泰弘	文学部准教授
	若狭徹	文学部准教授
	本多貴之	理工学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	川島高峰	情報コミュニケーション学部准教授
	川口誠人	学術・社会連携部長
	外山徹	博物館学芸員
	島田和高	博物館学芸員
	日比佳代子	博物館学芸員
	忽那敬三	博物館学芸員

② 資料評価分科会

任期：2021年4月1日～2023年3月31日

座長	野尻泰弘	文学部准教授
	菊池一夫	商学部教授
	若狭徹	文学部准教授
	薩摩秀登	経営学部教授
	外山徹	博物館事務室
	島田和高	博物館事務室
	日比佳代子	博物館事務室
	忽那敬三	博物館事務室

(3) 明治大学大久保忠和考古学振興基金運営委員会

委員長	千葉修身	館長／商学部教授
	長尾進	副館長／国際日本学部教授
	阿部芳郎	文学部教授、考古学専攻主任
	石川日出志	文学部教授
	佐々木憲一	文学部教授
	藤山龍造	文学部教授
	若狭徹	文学部准教授

	熊野正也	元明治大学図書館事務部長
	小川直裕	東村山市教育委員会
	野口淳	明治大学博物館友の会会長
	琴野武	社会連携事務長
	市川園子	博物館事務長

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

(4) 研究調査員

高橋昭夫	商学部教授（商品学）
上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
牛米努	文学部兼任講師 税務大学校租税史料室研究調査員
金子智	株式会社乃村工藝社
山路直充	市立市川考古博物館学芸員

任期：2021年4月1日～2022年3月31日

(5) 作業部会

① 博物館・大学院商学研究科・商学部連携「伝

座長	高橋昭夫	商学部教授（商品学）
	菊池一夫	商学部教授（商業経営論）
	上原義子	商学部兼任講師 高千穂大学商学部准教授
	外山徹	博物館学芸員

統的工芸品の経営とマーケティングプロジェクト推進部会

(6) 明治大学博物館友の会2021年度役員

相談役	千葉修身	長尾進	
顧問	大塚初重	熊野正也	杉原重夫
会長	野口淳		
副会長	村井孝行 (会計兼務)	橋本秀夫 (行事兼務)	
理事	鈴木 弘	新井正子(総務)	
	林信雄 (広報)		
運営委員 (総務)	宮城正 (総務)		
”(会計)	古沢芳枝	片桐達雄	
”(行事)	松村祐安	桐生邦子	
”(広報)	望月桂一郎		
”(図書室 管理員副代表)	新井正子		
”(展示解 説員副代表)	渡辺やす子		

図書室管理員 代表	木戸孝義		
展示解説員代表	林信雄		
監事	支倉紀代美	松本慶三	
分科会	古文書を読む会		高橋幸子
	平成内藤家文書研究会		中村光子
	工芸の会		平井孝雄
	旧石器・縄文文化研究会		杉山昭
	弥生文化研究会		岡本直和
	古文書の基礎を学ぶ会		平井孝雄
	東アジアの中の古代日本研究会		山本廣一
	前方後円墳研究会		細川恵司
	「倭国から大和」を学ぶ会		野崎征彦
	古代東北アジアと日本研究会		遠藤典夫
飛鳥・奈良の会		荒木茂	

(7) 各種会議開催日

① 博物館運営委員会

ア 第1回 オンライン会議 6月24日

審議事項

- ・2022年度教育・研究に関する年度計画書等の提出について
- ・籠谷典子「知の公開」博物館活動資金の設定及び同内規の制定について
- ・明治大学ミュージアム「文化発信」資金の設定及び同内規の制定について

報告事項

- ・大久保忠和考古学振興基金の終了に伴う同基金規程の廃止スケジュール変更について
- ・2021年度明治大学博物館特別展「校友山脈—明治大学の教育と人材」実施について

イ 第2回 メール審議 2021年7月30日付議(8月6日審議期限)

審議事項

- ・全学共通総合講座【機関企画講座（タイプB）】の開講申請について

報告事項

- ・学校法人明治大学第3期中期計画の策定経過について
- ・明治大学ミュージアム「文化発信」資金の募集開始について

ウ 第3回 メール審議 2021年9月22日付議
(9月27日審議期限)

審議事項

- ・博物館運営委員会資料評価分科会委員の委嘱について

エ 第4回 オンライン会議 10月25日

審議事項

- ・2022年度博物館予算編成資料について
- ・明治大学博物館と南山大学人類学博物館との交流・連携に関する協定の更新について

報告事項

- ・2021年度教育・研究に関する年度計画書重点項目等の進捗状況について
- ・ミュージアムキャラクターアワード2021における「めいじろう」のグランプリ獲得について
- ・明治大学ミュージアム「文化発信」資金への寄付状況について

オ 第5回 メール審議 11月24日付議 (12月1日審議期限)

審議事項

- ・明治大学博物館2022年展覧会計画 (案) について

- ・2022年度全学共通総合講座 講座計画書 (シラバス) 「大学博物館を実見する」 (案) について

カ 第6回 オンライン会議 2022年3月18日

審議事項

- ・2021年度事業報告
- ・2022年度事業計画
- ・2022年度研究調査員の委嘱について

報告事項

- ・新型コロナウイルス感染症に係る博物館の対応について
- ・2022年度の体制について

② 博物館運営委員会資料評価分科会

第1回 9月27日付議 (～29日審議期限)

第2回 12月2日付議 (～8日審議期限)

※メール審議により開催

③ 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会

第1回 5月20日

第2回 9月10日

※いずれもオンライン会議により開催

④ 博物館・友の会連絡会議

第1回 5月21日 第2回 9月24日

第3回 11月19日 第4回 2022年2月18日

※いずれもオンライン会議により開催

3. 予算・決算

(1) 2021年度事業費予算・決算

① 予算

科目	目的	博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
				特別展	大学博物館 交流事業	伝統工芸 マーケティング	考古多視点的 アーカイブ	
兼務職員人件費		648,000	0	0	0	0	0	648,000
福利費		14,000	0	0	0	0	0	14,000
修繕費		50,000	0	0	0	0	0	50,000
旅費交通費		500,000	0	166,000	136,000	413,000	0	1,215,000
業務委託費		2,580,000	0	2,500,000	0	33,000	1,100,000	6,213,000
保険料		160,000	0	100,000	0	0	0	260,000
準備品		510,000	0	0	0	0	0	510,000
その他の消耗品費		1,523,000	0	112,000	9,000	0	159,000	1,803,000
印刷製本費		1,810,000	0	600,000	132,000	0	0	2,542,000
通信費		88,000	0	0	0	0	0	88,000
郵便費		22,000	0	0	0	0	0	22,000
運搬費		40,000	0	500,000	400,000	0	0	940,000
広告費		160,000	0	0	0	0	0	160,000
支払手数料		215,000	0	1,500,000	0	60,000	0	1,775,000
会合費		96,000	0	0	0	0	0	96,000
公租公課		34,000	0	0	0	0	0	34,000
教育研究用機器備品費		2,973,000	0	0	0	0	0	2,973,000
合計		11,423,000	0	5,478,000	677,000	506,000	1,259,000	19,343,000
前年度予算額		12,027,000	0	5,766,000	712,000	532,000	1,325,000	20,362,000
増・減 (▲)		▲ 604,000	0	▲ 288,000	▲ 35,000	▲ 26,000	▲ 66,000	▲ 1,019,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算追加、振替は反映していない
※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない

② 決算

科目	目的	博物館費	基金事業費	特定課題推進費				合計
				特別展	大学博物館 交流事業	伝統工芸 マーケティング	考古多視点的 アーカイブ	
兼務職員人件費		508,200	0	0	0	0	0	508,200
福利費		0	0	0	0	0	0	0
修繕費		34,430	0	0	0	0	0	34,430
旅費交通費		214,347	0	0	0	47,000	0	261,347
業務委託費		2,583,455	0	3,308,470	0	0	2,040,280	7,932,205
保険料		6,150	0	0	0	0	0	6,150

準備品	536,739	140,140	0	0	0	118,800	655,539
その他の消耗品費	3,596,328	10,230	934,241	0	0	33,540	4,564,109
印刷製本費	1,361,544	0	834,748	102,850	0	0	2,299,142
通信費	87,120	0	0	0	0	0	87,120
郵便費	9,502	0	0	0	0	0	9,502
運搬費	39,242	0	0	0	0	0	39,242
広告費	30,000	0	0	0	0	0	30,000
支払手数料	24,450	0	862,820	0	0	0	887,270
会合費	19,565	0	0	0	0	0	19,565
公租公課	30,000	0	0	0	0	0	30,000
教育研究用機器備品費	2,508,601	1,503,370	0	0	0	0	2,508,601
合計	11,589,673	1,653,740	5,940,279	102,850	47,000	2,192,620	19,872,422
前年度決算額	10,334,827	0	2,254,930	24,530	0	1,251,800	13,866,087
増・減(▲)	1,254,846	1,653,740	3,685,349	78,320	47,000	940,820	6,006,335

※予算額を超える執行は年度途中で予算追加、振替の措置を取っている
 ※合計金額は博物館費と特定課題推進費の合計で基金事業費を含んでいない
 ※基金事業費は、籠谷典子「知の公開」ミュージアム資金による

(2) 2021年度収入

科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	228,956
文献複写・資料代	10,000	21,400
撮影・掲載料	200,000	575,850
特別展入場料	10,000	0
ミュージアムグッズ売上	410,000	331,260
その他	50,000	47,746
合計	1,280,000	1,205,212
前年度予算決算額	1,280,000	1,075,563
増・減(▲)	0	129,649

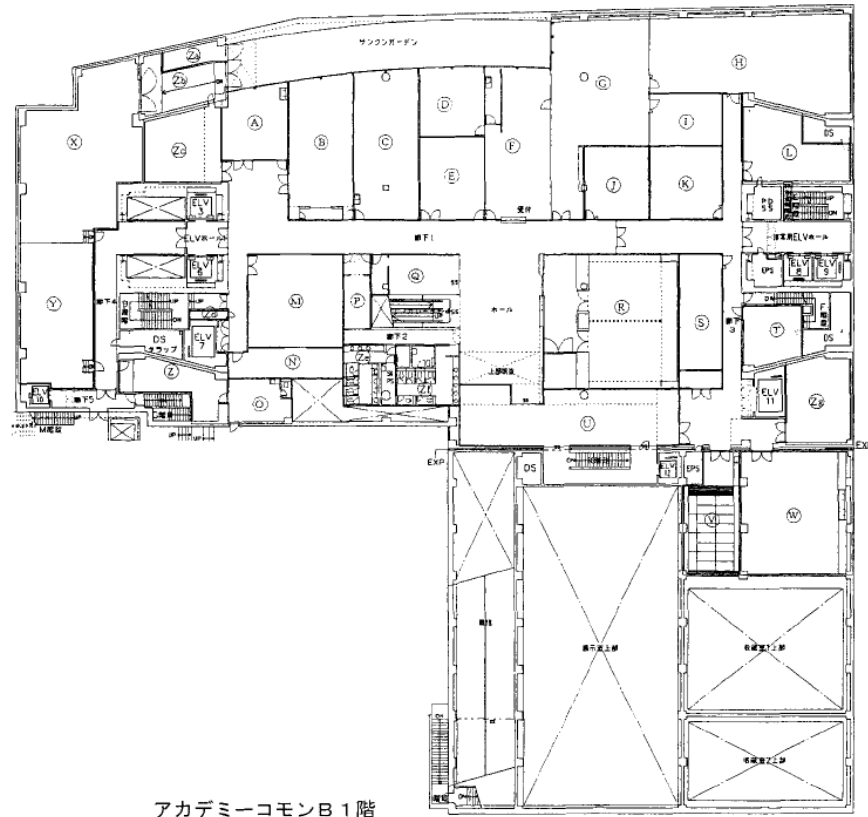
※上記のほか、籠谷典子氏から博物館へ2000万円の寄付があり、籠谷典子「知の公開」ミュージアム資金を設定した

4. 施設概要・見取り図

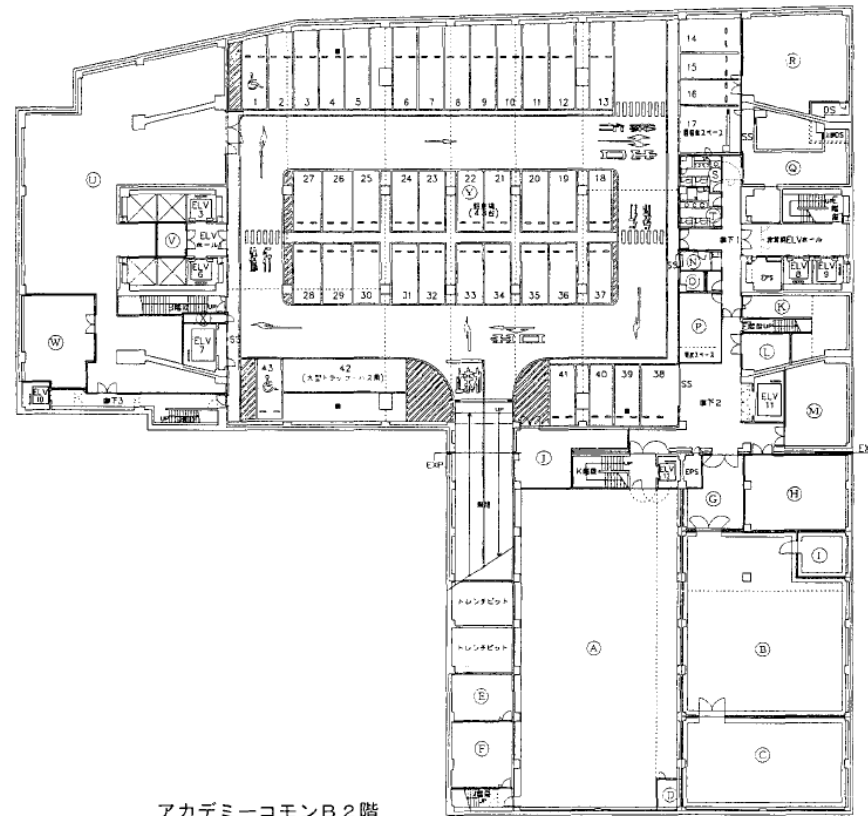
(1) 施設概要

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86㎡	243.90㎡
	事務室	B1	F	94.06㎡	
	会議室	B1	J	45.12㎡	
	倉庫	B1	L	61.86㎡	
教部門育普及	図書室	B1	G	145.04㎡	523.22㎡
	書庫	B1	H	176.03㎡	
	閲覧室	B1	I	35.95㎡	
	博物館教室	B1	B	87.94㎡	
	体験学習室	B1	A	44.31㎡	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95㎡	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19㎡	785.73㎡
	大学史展示室	B1	U	115.20㎡	
	特別展示室	B1	R	173.34㎡	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03㎡	332.76㎡
	作業室1	B1	V	60.80㎡	
	作業室2	B1	W	129.70㎡	
	展示準備室	B1	K	50.23㎡	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90㎡	649.11㎡
	一時保管室	B2	H	77.35㎡	
	収蔵室1	B2	B	271.46㎡	
	収蔵室2	B2	C	147.37㎡	
	特別収蔵室	B2	I	23.28㎡	
	写真保管室1	B1	S	56.68㎡	
	写真保管室2	B1	T	34.07㎡	
合計					2,534.72㎡

(2) 施設見取り図



アカデミーコモンB 1階



アカデミーコモンB 2階

5. 規程

明治大学博物館規程

1991年10月31日制定
1991年規程第2号

(趣旨)

第1条 この規程は、明治大学学則第64条第2項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友及び一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 本大学における教育・研究の成果を発信する展示会、講演会、シンポジウム等の開催
- (7) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (8) 生涯教育の振興及び学習支援
- (9) 分館の設置及び運営
- (10) その他必要と認められる事業

(館長)

第4条 博物館に、館長1名を置く。

2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。

3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により理事会が任命する。

4 館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 館長は、再任されることができる。

6 館長は、学部、大学院、附属学校又は附属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第5条 博物館に、副館長1名を置く。

2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、理事会が任命する。

4 副館長の任期は、2年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。

5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第6条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職1名並びに学芸員及び職員若干名を置く。

3 学芸員は、第3条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

第6条の2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

2 研究調査員は、本大学の教職員及び学外の有識者から、館長が次条に規定する博物館運営委員会の同意を得て委嘱する。

3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館運営委員会)

第7条 博物館の運営に関して、次に掲げる事項について審議するため、博物館に博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(1) 第3条に掲げる事業及びその事業計画に関する事項

(2) 博物館の管理・運営に関する事項

(3) 予算及び決算に関する事項

(4) その他委員会が必要と認めた事項

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 館長

(2) 副館長

(3) 博物館の運営に関して専門知識を有する専任教職員の中から館長が推薦する者若干名

(4) 第6条第2項に規定する学芸員

(5) 学術・社会連携部長

3 前項第3号の委員は、学長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

7 委員長は、第2項第1号の委員をもって充て、副委員長は、委員の中から委員会の同意を得て、委員長が指名する。

8 委員長は、会務を総理し、委員会の議長となる。

9 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(会議)

第7条の2 委員会は、必要に応じ、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

5 委員会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。

6 分科会に関し必要な事項は、委員長が委員会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第8条 この規程を改廃するときは、委員会の議を経なければならない。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、委員会の議を経た後、学長の承認を得て、別に定める。

附 則 (1991年規程第2号)

(施行期日)

1 この規程は、1991年(平成3年)10月31日から施行する。

(明治大学刑事博物館規程等の廃止)

2 次に掲げる規程は、廃止する。

- (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和56年規程第72号）
- (2) 明治大学商品陳列館規程（昭和56年規程第73号）
- (3) 明治大学考古学博物館規程（昭和56年規程第74号）
（通達第669号）

附 則（1996年度規程第16号）

この規程は、1997年（平成9年）4月1日から施行する。
（通達第893号）（注 博物館協議会の設置に伴う改正）

附 則（2001年度規程第14号）

この規程は、2002年（平成14年）4月1日から施行する。
（通達第1143号）（注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正）

附 則（2003年度規程第8号）
（施行期日）

- 1 この規程は、2004年（平成16年）4月1日から施行する。
（改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例）
- 2 改正前の明治大学博物館規程第6条第1項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第8条第1項の規定にかかわらず、2004年（平成16年）3月31日をもって満了するものとする。
（通達第1232号）（注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正）

附 則（2006年度規程第13号）

この規程は、2006年（平成18年）11月16日から施行する。
（通達第1490号）（注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正）

附 則（2007年度規程第21号）

この規程は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。
（通達第1562号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2008年度規程第4号）

この規程は、2008年（平成20年）5月20日から施行する。
（通達第1689号）（注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正）

附 則（2009年度規程第7号）

この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。
（通達第1807号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2017年度規程第3号）
（施行期日）

- 1 この規程は、2017年（平成29年）4月20日から施行する。
（委員の任期の特例）
- 2 この規程の施行後、改正後の第7条第2項第3号の規定により最初に委嘱される委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、2019年（平成31年）3月31日までとする。
（通達第2462号）（注 博物館の事業の追加、博物館協議会の博物館運営委員会への改組等に伴う改正）

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994年9月26日制定
1994年度例規第7号

（趣旨）

第1条 この要綱は、明治大学博物館規程（1991年規程第2号）第9条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品（以下「資料等」という。）の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第2条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真又は動画の撮影を行うことをいう。
- (2) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

（申請）

第3条 資料等の撮影及び掲載（以下「撮影・掲載」という。）を希望する者（以下「申請者」という。）は、所定の資料撮影・掲載申請書（以下「申請書」という。）を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長（以下「館長」という。）に提出し、許可を受けなければならない。

（許可）

第4条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

- 2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。
 - (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
 - (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
 - (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
 - (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
 - (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。
- 3 博物館が所有する資料等の写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ若しくはそれらの複製物又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができるものと明らかに認められる場合は、掲載のみを許可する。

（撮影・掲載を許可しない場合）

第5条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

（料金）

第6条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携

部博物館事務室に納付しなければならない。

- 2 料金は、資料等1点当たりの金額とする。
- 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。

（料金の免除）

第7条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。
 - (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
 - (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
 - (4) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
 - (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
 - (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
 - (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。
- 2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

（準用規定）

第8条 資料等の熟覧並びに写真フィルム原版、デジタル写真、動画、デジタルコンテンツ又はそれらの複製物の利用による掲載及び転載（以下「貸出掲載・転載」という。）については、第3条から前条までの規定を準用する。

- 2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあつては別表第2に定める料金を、貸出掲載・転載にあつては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。（その他の諸経費）

第9条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

（意匠使用）

第10条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

- 2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

（申請者の責務等）

第11条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

- 2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

（許可の取消し等）

第12条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

- 2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

（雑則）

第13条 この要綱に定めのない事項については、館長

が博物館運営委員会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附 則（1994年度例規第7号）

この要綱は、1994年（平成6年）9月27日から施行する。

附 則（1997年度例規第7号）

この要綱は、1997年（平成9年）12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

（通達第922号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正）

附 則（2004年度例規第7号）

この要綱は、2004年（平成16年）10月1日から施行する。

（通達第1312号）（注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正）

附 則（2007年度例規第9号）

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。
（通達第1563号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2009年度例規第9号）

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1808号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2015年度例規第13号）

この要綱は、2016年（平成28年）4月1日から施行する。

（通達第2363号）（注 デジタル化に即した規定に改めること及び撮影・掲載料金等の改定に伴う改正）

附 則

この要綱は、2017年（平成29年）4月26日から施行する。

別表第1 （第6条関係） 撮影・掲載料金（消費税は含まない。）			
写真・動画		10,000	
（単位：円）			
別表第2 （第8条関係）			
熟覧		5,000	
熟覧料金（消費税は含まない。）			
（単位：円）			
別表第3 （第8条関係） 貸出掲載・転載料金（消費税は含まない。）			
サイズ	4×5 (インチ)	6×8(c m) 6×6(c m)	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

- 1 写真フィルム原版

(単位：円)

カラー・モノクローム	4,000
------------	-------

2 デジタル写真

(単位：円)

3 動画及びデジタルコンテンツ

動画及びデジタルコンテンツ	20,000
---------------	--------

(単位：円)

明治大学博物館特別展示室の利用に関する取扱要綱 2005年10月4日制定 2005年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第2条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

第3条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

第4条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。

3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

第5条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第6条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
 - (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
 - (3) その他利用が不適当と認められる場合
- 2 前項により、管理責任者は、利用を許可したとき

は、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第7条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不適当と管理責任者が認めたとき。

2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第9条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第10条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。

4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。

5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。

(権利の譲渡及び転貸の禁止)

第11条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。

(損害賠償)

第12条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することがある。

3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(主管部署)

第13条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(要綱の改廃)

第14条 この要綱を改廃するときは、博物館運営委員会の議を経なければならない。

附 則 (2005年度例規第8号)

この要綱は、2005年(平成17年)10月5日から施行する。

(通達第1397号)

附 則 (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則

この要綱は、2017年(平成29年)4月26日から施行する。

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995年5月8日制定

1995年度規程第2号

(設定)

第1条 明治大学(以下「本大学」という。)に、本大学文学部史学地理学科(考古学専攻)の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金5,000万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振興基金(以下「基金」という。)を設定する。

(目的)

第2条 基金は、考古学及び明治大学博物館(以下「博物館」という。)にかかわる調査・研究(以下単に「調査・研究」という。)を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

(資産)

第3条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

- (1) 第1条の指定寄付金
- (2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金
- (3) 第7条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

(基金の運用等)

第4条 基金の資産は、資金の運用に関する規則(2009年度規則第20号)に基づいて運用する。

2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。

3 基金は、第6条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。

(事業)

第5条 基金による事業は、次のとおりとする。

- (1) 調査・研究に対する助成
 - (2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰
 - (3) 前2号のほか、第2条の目的達成に必要な事業
- 2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。

(基金運営委員会)

第6条 基金の運用等及び前条第1項の事業に関する事

項を審議するため、基金運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 明治大学博物館長 1名
- (2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任(次号において「主任」という。) 1名
- (3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名
- (4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2名
- (5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名

3 前項第3号及び第5号の委員は、委員長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 第2項第3号及び第5号の委員は、再任されることができる。

6 運営委員会に、委員長を置き、第2項第1号の委員をもって充てる。

7 委員長に事故あるときは、第2項第2号の委員が、その職務を代行する。

8 委員長は、会務を総理する。

9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。

(収支残額の処理)

第7条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

(事務)

第8条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則)

第10条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附 則 (1995年度規程第2号)

(施行期日)

1 この規程は、1995年(平成7年)5月9日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 この規程の施行後、最初に任命される第6条第2項第3号及び第5号の委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、1997年(平成9年)3月31日までとする。

(通達第806号)

附 則 (2003年度規程第35号)

この規程は、2004年(平成16年)4月1日から施行する。

（通達第1282号）（注 考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正）

附 則（2007年度規程第40号）

この規程は、2007年（平成19年）11月8日から施行する。

（通達第1604号）（注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正）

附 則（2009年度規程第7号）

この規程は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1807号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2010年度規程第6号）

この規程は、2010年（平成22年）5月26日から施行し、改正後の規定は、同年3月30日から適用する。

（通達第1911号）（注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正）

明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定
1993年4月1日改訂
2006年4月1日改訂
2010年4月1日改訂
2014年4月1日改訂

（名称）

第1条 本会は、明治大学博物館友の会という。

（事務所）

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学（以下「大学」という）に所在する明治大学博物館（以下「博物館」という）内に置く。

（目的）

第3条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- 講演会・研修会・見学会などの開催
- 会報,ニュース,図書の発行
- 会員による自主研究分科会活動
- 博物館事業への協力活動
- その他目的達成に必要と認められた事業

（入会）

第5条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

2 会員には会員証を発行する。

（会員の特典）

第6条 会員には、次の特典がある。

- 本会および博物館の行事などの情報提供
- 大学並びに博物館主催行事への優待参加
- 大学図書館の閲覧

（退会）

第7条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

- 退会の申し出があった場合
- 死亡した場合
- 会員証記載の有効期限が過ぎた場合
- 本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合

（役員）

第8条 本会に、次の役員を置く。

- 会長 1名
- 副会長 2名以内
- 理事 5名以内
- 運営委員 若干名
- 監事 2名以内

（役員を選出）

第9条 役員は、次のとおり選出するものとする。

- 会長および監事は、総会で選出する。
- 副会長および理事は、会長が任命する。
- 総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。
- 上記②、③について、会報で報告する。
- 監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

（役員の仕事）

第10条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

- 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- 副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。
- 理事は、本会の総務、会計、広報、行事、企画などの会務を行う。
- 運営委員は、理事と共に会務を行う。
- 監事は、本会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べることが出来る。

（役員任期）

第11条 役員任期は、2年とする。ただし、役員の再任を妨げない。
2 補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

（相談役・顧問）

第12条 本会に、相談役および顧問を置くことが出来る。

- 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
- 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。

（総会）

第13条 本会は、年1回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。なお、理事会の議決,又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。

（理事会）

第14条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

- 総会に付議する重要な事項。
- その他、本会の運営に関する重要な事項。なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。

（運営委員会）

第15条 運営委員会は、会長、副会長、理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。

（会費）

第16条 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、その年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

- 一般会員 3,000円
- 家族会員 1,500円(同居の家族)
- 学生 1,500円
- 賛助会員(1口) 10,000円

（経費）

第17条 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

（事業年度）

第18条 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

（会則の変更）

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することはできない。

（付則）

- 本会則は、改訂年4月1日から発効する。
- 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6. 2021年度博物館長期・中期計画

1 理念・目的

グローバル化や情報化の進展にともなって多様化した人類的課題に対応できる高度な問題解決力をもった人材の育成や、学びを基軸とした新たなコミュニティの形成など、大学に対する社会の要請が近年ますます高まるなかで、教育・研究の成果を広く還元し、社会の発展に寄与することは、大学の使命の重要な一面である。博物館は、大学ブランドの社会的発信力を高め、本学の発展に貢献するための重要なインフラとして本学の特色ある教育・研究の一翼を担う。そして、博物館独自の展示や生涯学習の多様な機会の提供などをとおして社会に貢献する拠点的な役割を果たす。

<ミッション1：収蔵資料の保管、拡充および利活用の促進>

約45万点に及ぶ国内有数規模の各種収蔵資料を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

<ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充>
本学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、全学的なネットワークのもとで博物館として特色ある展示及び教育・研究事業を実現する。

<ミッション3：社会連携の推進と情報発信>

本学の教育・研究の成果を社会に還元するため、生涯学習の多様な機会の提供、及び地域の関係機関との交流を推進する。また、情報通信技術の活用によって、本学の教育・研究成果をより広範な人々に対して発信する役

割を担う。

2 内部質保証の方針

館長・副館長と専任職員による定例会議と、教員を中心に構成される博物館運営委員会により、内部での評価を行っている。外部からの評価は、一般社会人により組織されている博物館友の会との連絡会議の場で直接意見を
得る機会を設けているほか、企画展や常設展の来館者アンケートの意見を集計・分析し、問題点の改善に努めている。これらの内容は自己点検・評価に反映するとともに『博物館年報』としてまとめ、ホームページ上で一般にも公開し評価を受けることが可能な形をとっている。

3 教育

【学部・研究科の枠組みを越えた教育に関する計画】

(1) 全学共通総合講座・国際日本学部講義の実施

博物館が関係する法・商・文学部以外の学生にも博物館に関する学びの機会を提供する。座学以外に土器や文書など実物資料に触れる講義を設定し、多様な学びとアクティブラーニングを実践する。合計40名程度。

(2) 特別講義の実施

伝統工芸品マーケティングにかかわる民間の外部講師を招聘し、商学部・商学研究科の学生対象に特別講義を開催する。150名程度。

(3) 全学部対象の博物館実習の実施

学芸員資格取得のための館務実習について、全学部から実習生を受け入れ、指導する。実務に即した実習を実施し自主的な学びを促す。50名程度。

【多様な学びの機会の提供】

(1) 他施設での展示活動の展開

中央図書館・生田図書館での出張展示や附属中学校での出張授業を行うことにより、博物館に普段かかわりの少ない学部学生・生田キャンパスの学生・明治大学付属明治中学校の生徒にも本学の学術リソースに触れる機会を設け、多様な学びへとつなげる。

4 学生支援

【学生が様々なことに挑戦することのできる支援に関する計画】

(1) 学内ワーク・スタディの検討

現在、博物館ならびに図書室で学生が従事している補助的アルバイト業務について、その一部について経済的支援の観点を含めた学内ワーク・スタディの導入を検討する。いずれの業務についても専門性が求められることから、学生の能力・興味関心を考慮する等、実現に向けた具体案を策定する。

5 研究

【共創・学際的研究を推進し、次代に本学の強みとなる研究拠点に関する計画】

(1) 南山大学人類学博物館との協定事業の実施

2010年度から継続し、4期目となる事業。双方の特色ある収蔵資料の交換展示と関連公開講座、学芸員資格課程履修生対象の特別講義を実施し、学生に多様な学びの機会を提供し、学術リソースの社会還元をおこなう。

（2）学内外の研究者・機関と連携した共同研究や教育事業の実施

商学部教員等と連携した伝統的工芸品産業（信楽焼）のマーケティング研究、学芸員による科研費採択事業の研究を実施する。また、学内教員・組織の企画展開催を積極的に支援する。

【本学の研究成果の社会還元・社会実装に関する計画】

（1）学術リソースのデジタル化と情報発信の強化

博物館が有する膨大な考古資料の学術リソースをデジタル化してアーカイブとし、インターネット上で世界に発信し研究利用に供することで「明大考古学ブランド」をより一層高めていく。2021年度が4カ年計画の最終年度となる。

（2）研究成果の社会還元

収蔵資料および関連研究の成果を特定テーマ別に編集して報告する『明治大学博物館研究報告書（仮題）』を刊行・公開する。

【研究の国際化や国内外の大学や企業とのネットワーク拡大に関する計画】

（1）海外博物館との研究交流

2009年以来、資料の利活用や展示で研究交流の実績がある大英博物館をはじめとして、東アジア諸国や西欧諸国の博物館との国際交流の機会を増やし、学術交流を推進する。

（2）国際学会における研究交流の実施

考古部門学芸員による科研費事業の一環として、国際学会で研究発表を行っていく。国際黒曜石会議（IOC）北海道遠軽大会2023の開催に協力する。

【収蔵資料・博物館学にかかわる調査・研究の推進】

（1）調査・研究の推進

収蔵コレクションを対象とした調査・研究を多角的に推進する。各年度の中心的な事業となる特別展に関する調査研究を数年かけて取り組むほか、館を代表するコレクションの共同研究を行う。また、展示や保存環境に関する各地の博物館や関連機関・施設の調査を行い、収蔵資料に関連する学会に参加し、研究学術交流を積極的に推進する。科研費等研究の外部資金獲得を目指す。

6 社会連携・社会貢献

【持続可能な開発目標（SDGs）達成に資する取組みやプログラム】

（1）生涯学習の機会の促進

「質の高い教育をみんなに」にあたる生涯学習の機会提供を継続して推進する。博物館常設展の観覧料は無料であり、全ての人々に公開されている。

企画展や、リバティアカデミーの博物館企画講座により、多くの人々に学びの機会を提供している。来館者数に直結するSNS発信、オンラインコンテンツの充実を重点的に進めていくとともに、インターネットに対応できない人々への対策も検討する。

【リカレント教育を含めた生涯学習の拠点に関する計画】

（1）生涯学習・友の会の活動支援を柱とした拠点化の推進

30年の歴史をもつ公開講座をはじめ、一般社会人のニ

ーズが高い博物館講座を継続して開講し、研究成果の積極的な社会還元に努める。また、職場体験や校外学習など高校生以下の層にも対応する。

会員数が550名を数える明治大学博物館友の会は、自主的な講演会開催や勉強会活動、ボランティアなど積極的な生涯学習活動を展開しており、博物館は共催事業などの連携等の面で多大な支援を行っている。これらを推進し、生涯学習の一大拠点化をさらに推進していく。

【本学のリソースを地域社会に還元する計画】

（1）博物館主催特別展の開催

博物館単独または学内研究機関との調査・研究の成果を発信する特別展は、博物館の最重要事業に位置付けられており、数年の準備期間、予算、エフォートを十分に投入して実施する。2021年度は創立140周年にあわせ、大学史資料センターと共同企画で大学史の特別展を開催する。

（2）学術リソースの展示・講座による還元

南山大学との協定事業ならびに館または学内外の機関主催の企画展や、生涯学習講座により、地域社会にリソースを還元する。

【自治体や産業界、地域住民、校友などを交えたネットワークの構築に関する計画】

（1）原資料所在地等との連携事業の推進

当館で所蔵する資料と関連する自治体との共同・連携事業を推進する。

（2）キャンパス所在地域との連携事業への参画

東京都が毎秋開催する文化財公開事業や、千代田区の企業・商店・公開施設が参加する地域スタンプラリー事業への参画を継続し、活動の周知をはかる。

【学術リソースの保全】

（1）収蔵コレクションの保管と拡充

適切な保存環境を維持し、資料の保存処理・修復を行うことで45万点にのぼる貴重なコレクションの保全をはかり、研究ならびに展示への利活用を可能な状態とする。資料の購入や受贈を通じ、収蔵コレクションをさらに充実させる。一方で、約3800点の未排架資料が存在するなど、収蔵室の容量が逼迫しているため、関係部署に収蔵スペースの確保を求めていく。首都圏屈指の専門書を排架する博物館図書室の蔵書については、さらに内容を充実させる。

【学術リソースの多角的な活用】

（1）学内外の教員・研究者に対するレファレンス体制の整備

学内外の教員・研究者に対し、研究を目的とした収蔵コレクションの利用を促進する。調査への対応、目録の作成・公開、インターネット上で情報の発信を継続する。

（2）外部機関への資料貸し出しと広報誌・SNS等による一般への還元

実物資料ならびに写真等の資料貸し出しを積極的に行う。また、収蔵資料の情報について、広報誌やSNS等インターネット上で公開を推進し、社会に還元するほか、関連グッズを制作し幅広い層に対し興味関心を喚起す

る。

7 大学運営

【学費に依存しない収入の多様化に資する取組み】

（1）「明治大学博物館振興基金（仮称）」の立ち上げ

博物館は独自の収入を得る手段が限られてきたが、来館者が10万人を超えるなど近年当館への関心が高まりつつあることから、博物館の活動に資する寄付基金の設立に取り組む。内容は「明治大学図書館振興基金」を参考とし、2020年より検討を始め、2022年度からの運用を目指す。

（2）有料掲載画像の利用促進

収入の多様化に資するため、有料の資料掲載を促進する。SNSでの周知活動ならびにウェブサイトの利用案内を充実させる。

【各種申請・決済の効率化、情報環境の整備に関する計画】

（1）事務室内決裁書類のオンライン化の推進

年間約200件にのぼる取材・掲載申請書類をはじめとする事務室内の承認書類について、在宅勤務期間中の実績を踏まえ、ウェブによる回覧と電子印鑑による押印を推進し決裁の迅速化をはかる。

【継続的な事業推進を目的とした学芸員の専門職化】

（1）学芸員の専門職化

博物館運営の中心を担う学芸員について、現在は学長より委嘱されているのみであり、制度的な裏付けはなされていないのが現状である。今後も継続的に事業を推進していくため、専門的知識と技能を有する専門職としての正式な位置付けがなされるよう、関係部署に要請していく。

7. 2021年度単年度計画重点項目

1 博物館特別展「校友山脈―明治大学の教育と人材―」（仮題）の開催

創立140周年にあわせ、博物館と大学史資料センターの共同企画により、「顕著な業績を残した校友の群像」と校友を育んだ「明治大学の教育」という2つの視点を通して、本学が人材育成の面から近代社会に果たした役割を

8. 明治大学博物館のあゆみ

1881（明治14）年	1月	明治法律学校開校
1929（昭和4）年	4月	刑事博物館を記念館5階に開設
1931（昭和6）年		大学創立50周年記念刑事展覧会開催
1933（昭和8）年	9月	刑事博物館初代館長に大谷美隆法学部教授が就任 『刑事博物図録』を刊行
1949（昭和24）年		（第2次世界大戦） 新制大学へ移行
1951（昭和26）年	4月	刑事博物館の運営を再開　館長に島田正郎法学部教授（後、明治大学総長） 林久吉商学部教授（初代商品陳列館長）らの商品研究所が資料室を開設
1952（昭和27）年		考古学陳列館が2号館4階に開館　初代館長に後藤守一文学部教授が就任
1954（昭和29）年	4月	刑事博物館が2号館4階へ移転　6月に一般公開開始
1955（昭和30）年	2月	刑事博物館が博物館相当施設に指定される（2004年3月廃館にともない指定解除）

考える。主催：明治大学、テーマ：①明治大学の創立と教育、②校友山脈(司法・政界・財界・文化・芸能等各分野の校友の業績を紹介)、③明治大学の書き手たち・時代小説の系譜、④明大出身オリンピック。会場：博物館特別展示室(①②)、中央図書館ギャラリー(③)、岸本辰雄ホール(④)の3会場で開催。会期：2021　年7月～11月（95日間程度、創立記念日を含む）、入場無料（ドネーション方式）、会期中無休。

2 重要文化財を含む考古コレクションの多視点的アーカイブと国際発信

2021年度は4ヵ年計画の4ヵ年目。本重点項目では明大考古学の発足から蓄積された重要文化財を含む遺物・発掘記録を活用し、2D／3Dデジタル化等による多視点的かつ現在の研究視点からコレクションの学術評価を行っている。2021年度は、大判の紙媒体発掘記録や写真フィルムの業務委託によるデジタル化を推進し、公開用データベースへの登録を重点的に行う。また、構築済みのシステムを用い、考古遺物の3次元計測とCADデータへの変換を継続する。

3 明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業(第4期)

博物館学の教育・研究活性化と、所蔵する特色ある資料やコンテンツの交換活用による交流事業（2010年度から実施）。第4期(2019～2021年度)の3年目においては、①双方の特色ある収蔵資料を交換した小規模展示とそれに関連する公開講座、②両館の運営実践ないし収蔵資料体系をテーマとする学芸員資格課程履修生を対象とする特別講義、③2017～2020年度開催のシンポジウムに関わる成果報告集（オンライン及び冊子体）の刊行、を実施する。

4 伝統的工芸品産業（信楽焼・滋賀県）のマーケティング研究

伝統的工芸品を収蔵・展示資料とする商品部門において、商学部教員等に研究調査員を委嘱して組織している研究推進部会のさらなる活性化を図る。信楽焼（滋賀県）を対象とする2019年度から3ヶ年計画の3年目。国指定伝統的工芸品をブランドイメージとして掲げつつも、内実として手工業の食器類から建築材料・住宅設備まで多様な製品を抱える信楽焼の、種目の別によって方法の異なる多様なマーケティング活動について、製造・流通の関係者を交えて検証する。

VII 刑事部門2021年度 購入・寄贈資料について

日比 佳代子*

はじめに

1929年(昭和4)に設立された旧刑事博物館は、当初、江戸～明治初期の法制度にかかわる捕者道具や刑罰具（複製）などを収集したが、第2次大戦後の再興(1951年)以降は、学術資料の収集を主眼として近世法律文書および明治立法史関係文書を収集するようになった。

今日の博物館刑事部門では、下記のような特色あるコレクション群が形成されている。

- ・近世・近代の古文書資料
- ・錦絵などの絵画資料
- ・法制史関係の古典籍・古文書資料、高札および鑑札類
- ・捕者道具や刑罰具（復元品）、それらの絵画資料や文献資料

2022年度は、下記の表の通り、江戸時代の絵画資料、捕縛に関わる古文書資料を収集し、受贈資料はなかった。また、収蔵品の保存のために絵図と高札の修復を行った。

以下、受贈資料の説明と、修復資料の説明を行う。

1. 購入資料

(1) 「日本東西道中画」

江戸期写、安政2年（1855）修復。紙本彩色、一巻、29cm×855cm。

江戸から東海道をへて、伏見、大坂と向かい、瀬戸内海から関門海峡を抜け、長崎までを描く。江戸幕府の主要支配拠点を結ぶ道中図で、江戸長崎道中図などの名称で、類似の形式の作品が存在する。

当館が古文書を所蔵する譜代大名内藤家は、延享4年(1747)以降は、日向国延岡（現・宮崎県延岡

市）を所領とするが、豊後国大分郡の府内城（現・大分県大分市）の周辺に飛地を有していた。この飛地には千歳役所が置かれ、延岡から郡方の藩士が派遣されて領地支配にあっていた。本品で描かれた瀬戸内海から長崎までの道中には、府内も描かれている。江戸時代の長崎は、幕府にとって西国支配の要の一つであり、本品を見ると、内藤家の飛地が、長崎へ向かう航路上に位置していたことが視覚的に理解できる。



図1 「日本東西道中画」（部分）

(2) 「御取手縄仕様書」

寛政期。23丁、14cm×21cm。

捕縛時の縄のかけ方を解説した書物。江戸時代は身分や性別、幼老などにより縄のかけ方が異なった。本品では、それぞれの条件下での、縄のかけ方を文章と図で説明している。

前半部分の早縄一から早縄六までの記載は文章で縄のかけ方を説明しており、文字資料の少ないこの分野の資料としては貴重である。なお、早縄とは捕縛時の縄のかけ方のこと。

* 明治大学博物館刑事部門

1957（昭和32）年	5月	商品陳列館が2号館4階に開館（この頃には3館とも一般公開 3館共通の入館案内を作成）
1960（昭和35）年		考古学陳列館長に杉原莊介文学部教授が就任
1963（昭和38）年		譜代大名内藤家文書を和泉校舎図書館に収蔵、後、刑事博物館に移管
1966（昭和41）年	4月	小川町校舎へ移転(考古2階・刑事3階・商品4階) 商品陳列館長に三谷茂商学部教授が就任（大学紛争）
1976（昭和51）年	4月	刑事博物館長に鍋田一法学部教授が就任
1977（昭和52）年	4月	商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催（年1回～2003）
1981（昭和56）年		1号館（刑事1階・考古3階）、11号館（商品4階）へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部教授が就任
1983（昭和58）年	9月	考古学陳列館長に大塚初重文学部教授が就任
1985（昭和60）年	11月	3館大学会館へ移転（刑事・商品3階・考古4階）「考古学博物館」に名称変更
1987（昭和62）年	5月	公開講座「考古学ゼミナール」開講
1988（昭和63）年	6月	考古学博物館友の会結成
1991（平成3）年	4月	3博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
	10月	「明治大学博物館規程」制定
1995（平成7）年	4月	考古学博物館長に戸沢充則文学部教授が就任 刑事博物館長に川端博法学部教授が就任
	10月	博物館入門講座を開講
1997（平成9）年	4月	刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催（～12月）
2001（平成13）年	4月	刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
2002（平成14）年	4月	商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授が就任
2004（平成16）年	4月	「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館 博物館長に小崎尚文学部教授が就任 「明治大学博物館規程」改正施行（刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合） 国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」開催（～5月）
	10月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2005年3月）
2006（平成18）年	4月	博物館長に杉原重夫文学部教授が就任
	8月	文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2007年3月）
	10月	特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
	11月	明治大学黒曜石研究センターが博物館分館となる（～2010年3月）
2007（平成19）年	10月	事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
2009（平成21）年	4月	事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる
		巡回特別展「海のシルクロードの出发点“福建”」展開催 中国国家一級文物を展示（～5月）
2010（平成22）年	3月	南山大学人類学博物館と交流協定締結
2012（平成24）年	4月	博物館長に風間信隆商学部教授が就任
2013（平成25）年	2月	ギロチンとニュルンベルクの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「鷲ぎの博物館コレクション展」開催（～3月）
	3月	南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生－自明性への問いとコレクションの文化資源化－』を岩田書院から刊行
	7月	岩宿遺跡出土石器（重文・29点）他記録類をはじめて海外へ出展（～9月） 韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展開催（～2014年2月）
2014（平成26）年	5月	開館10年を記念して、これまでの来歴を検証し将来を展望した「明大博物館クロニクル」開催（～6月）
	7月	大船渡市と明治大学が結んだ震災復興支援の協定にもとづき、明治大学博物館のコレクションを紹介した「明治大学コレクションの世界：氷河期から昭和まで」を大船渡市立博物館で開催（～8月）
2016（平成28）年	3月	常設展示を改修、新装オープン 東京都教育庁から博物館相当施設に指定される
	4月	博物館長に村上一博法学部教授が就任
2017（平成29）年	4月	明治大学博物館規程の一部改正が承認され、博物館協議会を博物館運営委員会に改組
2018（平成30）年	3月	年度の入館・利用者数が初めて10万人を超える
	4月	博物館長に井上崇通商学部教授が就任
	8月	2004年の開館以来の入館・利用者数が100万人を超える
	10月	大英博物館資料を展示した特別展「ウィリアム・ガウランドと日本の古墳研究」開催（～12月）
2019（令和1）年	9月	特別展「見えているのに見えていない！立体錯視の最前線」が入場者2万人を超える
2020（令和2）年	2月	年度の入館・利用者数が初めて11万人を超える
	3月	COVID-19（新型コロナウイルス感染症）拡大防止のため臨時休館（～10月）
	4月	博物館長に千葉修身商学部教授が就任
	10月	COVID-19による各種の行動制限下、特別展「氷河期の狩人は黒曜石の山をめざす－明治大学の黒曜石考古学－」を開催
2021（令和3）年	7月	大学史資料センターとの共同企画特別展として、明治大学創立140周年記念事業「校友山脈－明治大学の教育と人材－」と特別展校友山脈第Ⅱ部 明治大学×SDGs「神田学生街－140年の今⇄昔」を開催
	-4月	



図2 御取手縄仕様書」(部分)

2. 修復資料

(1) 「日向国臼杵郡内椎葉山絵図」

史料番号 内藤家文書1-27-5

原本は元禄15年(1705)作成、本品は江戸期写。

元禄の国絵図作成にあたり、日向国椎葉山については、薩摩藩が幕府に現状報告を行った。当時、椎葉山は幕府領と人吉藩相良家の領地で、幕府領の部分も人吉藩に管理がゆだねられていた。このため、薩摩藩は幕府に提出した絵図の控を相良藩にも渡した。この絵図は内藤藩の記録の一つとして今日に伝わっている。

修復前の状態

紙継ぎの剥離、全体的な皺、おびただしい数の虫損があり、絵図が入っていた袋も欠損や虫損がみられた。絵図を広げるだけで劣化を進めてしまう状況であったため、修復専門業者である有限会社紙資料修復工房に依頼し、約半年をかけて以下の修復を行

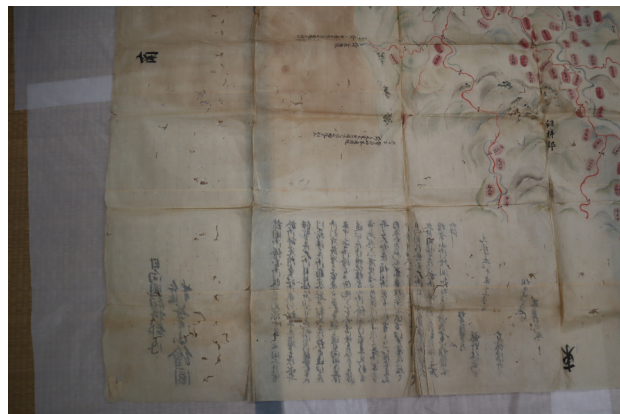


図3 修復前
った。

修復作業

① ドライクリーニング

資料表裏の塵埃を、サクシオンテーブルを使用して穏やかに吸引しながら除去した。サクシオンテーブルとは、気圧差を利用して低真空の下方に塵埃を吸い取る機械のことである。その後、練り消しゴムを使用し、手作業で細かな汚損を除去した。

② フラットニング

スポットテストの結果、耐水性の低さが確認されたため、超音波加湿器を使用して、ミスト状の水分により徐々にしわを伸ばした。その後、濾紙に挟み、軽い重しをしてフラットニングを進め、この作業を繰り返した。

③ 補修

生麩糊を使用し、継ぎのはがれに糊差しをした。虫損の穴には、アクリル絵の具で着色した極薄い典具帖紙を資料と同じ厚さになるように重ねて補填を行った。



図4 虫損補填

(2) 「高札」

資料番号 高札11

年代不明

板の一部が欠け、墨が残っていないため、詳細は不明ながら賭け事を禁じる高札とみられる。

修復前の状態

虫喰いが著しく、木の内部が空洞化して一部は失われ、一部は剥離していた。形を留めている部分も触るだけで朽ちてしまいそうな状況であったため、修復専門業者である株式会社文化財ユニオンに依頼し、約2ヶ月をかけて以下の修復を行った。

修復作業

① 汚れの除去

虫喰いの孔を中心に圧縮空気を用いて虫喰いの孔から虫喰い糞などを取り除いた。虫喰いの孔からペンタクロロフェノール15%溶液を注入し、殺虫効果を強化した。アルコールなどを用いて全体の汚れを複数回にわたり取り除いた。



図5 修復前

② 接合

十分に乾燥させた後、剥離した木片をエポキシ系接着剤を用いて接合した。

③ 素材の強化

全体にpsny6溶液を、虫喰い跡を中心に含浸させ、全体の強化をはかった。これにより虫喰い粉を止め脆弱部分を強化した。



図6 修復後

Ⅷ 埼玉県北東部の旧家伝来漆器資料

1. 受贈した資料

埼玉県北東部の旧家から、以下の通り、19世紀後半と年代比定のできる漆器資料の寄贈を受けた。

	資料名	年代
①	蒸籠	安政3年〈1856〉
②	根来塗重箱	
③	手あぶり火鉢	
④	溜塗菓子椀	嘉永5年〈1852〉
⑤	縁金黒漆塗蓋付椀	
⑥	内朱外黒蓋付椀	
⑦	蒔絵雁帆柱旭日文蓋付椀	

2. 所蔵家の来歴と受贈品の年代比定

(1) 所蔵家について

これらの漆器の旧蔵者は、江戸時代には旧中山道沿道に位置する足立郡内の村において代々名主を勤めた旧家である。江戸幕府の儒学者林大学頭の領地支配を委ねられていた関係から学問に習熟する機会があり、江戸後期の当主は代々勸農のマニュアルである「農書」を刊行している。特に、四代目当主は旧武蔵国の私撰地誌を著した人物として知られている。林家との関係によって、江戸との往来の機会も多くあったと考えられる。

漆器の梱包材に埼玉県から戸籍区として旧郡村を再編成した大区小区の正副区長に宛てた明治8年(1875)付司法省布達の文面が使用されており、そのような書面を入手し得る立場ということから、名主役に引き続いて明治22年(1889)の町村合併までは戸長を勤めていたと推測される。

(2) 受贈品の年代について

①については箱書に「蒸籠」とあり、購入の年次

が記されているので年代が確定できる。②③については、直接、年代を検討する材料がない。④については収納の状態から中身と箱は一致していると判断され、箱の蓋裏に記された新調の年代を採用した。⑤⑥⑦については、梱包材が検討の材料となるので、以下に概略を記す。

⑤⑥⑦と年代の判明している④に共通する梱包材として「埼玉県会議場」の名入り罫紙があった。したがって、これらの品は同時期に併行して使用されていた可能性が高い。反故紙として梱包に用いられた罫紙は、記載から明治14年(1880)～17年頃の県会議の予算策定に係わる参考資料とわかる。年代的に一番新しい梱包材は、⑤の昭和36年(1961)付の毎日新聞、また、⑤⑥とも昭和30年付の朝日新聞が多く用いられている。新聞紙という性格を考えると1960年代が最終的に使用された時期で、以降、そのまま収納され続けていたと考えられる。さかのぼると、⑤に昭和15年(1940)付の東京日日新聞が、⑥には昭和11年の日付のある習字紙が用いられている。⑤には明治29年(1895)の通い帳の断片も含まれ、その前が先述の「埼玉県会議場」の罫紙となる。最も年代の古い梱包材がこの罫紙ということになるが、予算策定の参考資料なので、用が済み次第反故紙になったとも言えるし、一方、和紙の保存性を考えると一定期間経過した後に使用された可能性も考え得る。また、購入当初からの梱包材とは考えられないので、一定期間使用の後、一斉に交換されたことを勘案しても、漆器の製造時期自体は19世紀後半に比定されるのではないかと考える。

⑤⑥の多量の椀類は、旧名主・戸長の家系に伝わる食器類の一般的な動向と同じく、自宅で寄合を開いた際などに使用されていたものと家人には伝えられている。明治22年(1888)の町村合併を機に公職か

ら退いた後、多量の食器を使用する機会がなくなったことから梱包して一旦仕舞い込まれた後、1960年代頃まで一部が使用され続けたのではないかと推測される。

3. 資料解説

(1) 蒸籠（安政3年〈1856〉）

箱書きに購入の年次が記されている。木目に沿って彫刻刀で彫りを入れた「批目（へぎめ）」の加飾と、透き漆による半透明の塗りが特徴で、いわゆる春慶塗と呼ばれるものである。岐阜県高山市の飛騨春慶が知られるが、同様の技法は、近場では茨城県の粟野春慶塗があり、近年まで秋田県にも能代春慶塗があった。古くは産地が特化されることなく一般的な漆芸技法であったとも考えられる。本品の製造に係わる来歴は残念ながら不明である。

(2) 根来塗重箱

中塗りの黒漆の上から朱漆をかけ、景色（文様）を研ぎ出して表現している。根来塗の名称は、使い込む内に塗膜に擦れが生じていた根来寺（和歌山県）の什器をデザインのモチーフとしたことに因む。

(3) 手あぶり火鉢

文人であった当主が冬場に文机に向かう時、脇に置いて手指を温めたものと思われる。三本足の台にボウル状の金属部品が組み合わされている。加飾は黒漆に金蒔絵と朱漆で草花があしらわれている。塗膜はやや紫外線劣化の影響で茶色味がかかる。

(4) 溜塗菓子椀（嘉永5年〈1852〉）

箱の蓋裏に購入の年次が記されている。下地の上に朱漆で中塗りをし、上塗りには着色しない精製漆（透き漆）を用いている。時間が経つにつれて上塗り漆の色がうすれ、下にある朱が透けることによってワインレッドを呈する。

(5) 縁金黒漆塗蓋付椀

縁には金彩をほどこす。胴の部分が垂直に立つ「壺」と呼ばれる器形。見込みはふつうの椀と同様にボウル状となっているので、木地に厚みがあり、重量感がある。江戸後期の『守貞謄稿』ではすでに古式の器形とされており、現在はほぼ生産されていない。塗膜の状態は非常に良好である。

(6) 内朱外黒蓋付椀

「平」と呼ばれる器形。胴の部分が垂直に立ち、蓋が大きく椀（本体）の縁の外側をおおうのも特徴。『守貞謄稿』は「壺」と同様に古式の器とし、現在はほぼ生産されていない形状である。塗膜の状態は非常に良好である。

(7) 蒔絵雁帆柱旭日文蓋付椀

水平線から朝日が昇り、海面にはすでにおびただしい舟の帆が連なっている様を金蒔絵で表現している。朱漆は明け初める空と海の色をイメージしてのものだろう。煮物椀。⑤⑥とは異なり薄挽きのためか木胎には狂いが生じているものの、塗膜や蒔絵の状態は良好である。

* 明治大学博物館商品部門

明治大学博物館年報 2021年度

2023年 3月 31日 発行

編集 忽那敬三・島田和高

発行 明治大学 学術・社会連携部 博物館事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4448 FAX 03-3296-4365

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

